2014年度 法学部

ニューヨーク スタディツアー 報告書

名古屋学院大学法学部編

Culture & Human Resources
NAGOYA GAKUIN UNIVERSITY

目次

1．スタディツアー概要
ツアー概要・・2
イベントの記録：重松 歩月・・5

2．企業研修報告
DAILY SUN での研修から学んだこと：大山 リエ・藤谷 和翔・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
企業研修を終えて―H.I.S. ニューヨーク：林 紀樹・寺澤 将成・中川 明日香・・・・・・・・・・・・・・12
Marketing Strategy…ICN の 5 日間 ～ビジネスの一般教養を身に付ける～：
重松 歩月・柳原 康次・山村 峻秀・・16
NY企業研修 ―弁護士事務所での特別な5日間：伊藤 翼・河合 真子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
インターンシップを終えて ―ニューヨーク留学センター：小崎 敬太・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
NY 企業研修を終えて ―O-Planning：阿部 翔太郎・田中 聖也・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
Weekly Biz で研修を経験して：鈴木 健大・中井 研太朗・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
ニューヨーク・インターン報告 ―Y's Publishing：新宮 優・横井 達哉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
研修の記録 ―YT Resolution Services, LLC：中島 明穂・竹中 将人・中村 暢仁・・・・・・・・・・・38
後日談：重松 歩月・・・42

3．テーマ報告
躍動・感動・はじける笑顔！～世界の中心ニューヨークで世界を ENJOY！～：
重松 歩月・横井 達哉・寺澤 将成・・44
ニューヨークのミュージカル：阿部 翔太郎・大山 リエ・河合 真子・新宮 優・中川 明日香・・・48
メトロポリタン美術館を巡る：林 紀樹・・51
ワシントン D.C.観光：小崎 敬太・柳原 康次・山村 峻秀・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
アメリカ軍事展示物巡り：伊藤 翼・田中 聖也・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57

4．引率者所感
法学部NYスタディツアー引率を終えて：長瀬 賢俊・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
総括 ―編集後記に代えて―：宮坂 清・・・64

１．スタディツアー概要

ツアー概要

1. 趣旨

世界の政治・ビジネスの中心とされるニューヨークを拠点にして、法学部生を対象とした少人数の企業研修を実施する。世界の巨大企業が数多く進出し、ダイナミックに変化し続ける都市ニューヨークで、国際ビジネスを肌感覚で学ぶと共に、世界中の文化・社会・生活に触れる。

２．参加者

阿部 翔太郎、伊藤 翼、大山 リエ、河合 真子、小崎 敬太、重松 歩月、新宮 優、鈴木 健大、竹中 将人、田中 聖也、寺澤 将成、中井 研太朗、中川 明日香、中島 明穂、中村 暢仁、林 紀樹、藤谷 和翔、柳原 康次、山村 峻秀、横井 達哉（以上、法学部 2 年生）

【引率】長瀬 賢俊（国際センター課長補佐）、宮坂 清（法学部講師）

３．日程

2 月 28 日(土)	午前、中部国際空港より出発。現地時間午後、ニューヨーク着。
3 月 1 日(日)	午前、自由行動。午後、オリエンテーション。
3 月 2 日(月)～6 日(金)	企業研修。研修後、全員でミーティング。
3 月 7 日(土)	ワシントン D.C.観光。
3 月 8 日(日)	午前、自由行動。午後、ビジネス交流会。
3 月 9 日(月)	ニューヨーク観光。
3 月 10 日(火)、11 日(水)	終日、自由行動。
3 月 12 日(木)	午前、ニューヨーク発。
3 月 13 日(金)	午後、中部国際空港着。

日程の詳細

■2 月 28 日(土)

午前、中部国際空港をデルタ航空機にて出発、デトロイト空港にて乗り換え、現地時間午後にニューヨーク・ラガーディア空港に到着。マンハッタン島の中心部に位置するホテル・ペンシルヴァニアに宿泊。研修先の企業はいずれも徒歩圏内。

■3 月 1 日(日)

午前、自由行動。午後、ホテル会議室にてウエスト・ウイング・アジアの富松裕之氏主催のオリエンテーション。H.I.S.の岩本氏から行動上の注意について説明を受け、研修先の会社、Weekly Biz の高橋克明氏、O Planning の松本祐樹氏からニューヨークでの仕事や日本企業の活動について講演いただいた。

■3 月 2 日(月)～6 日(金)

企業研修。9 つの企業にてそれぞれ 1～3 名が研修。午前 9 時頃から午後 6 時頃まで。研修中は毎晩、全員でミーティングを行い、日誌を書き、職場ごとに報告し、経験を共有した。

■3 月 7 日(土)

ワシントン D.C.観光。連邦議会議事堂、リンカーン記念館、ワシントン記念塔、ホワイトハウス

を周遊見学。スミソニアン博物館に含まれる国立アメリカ歴史博物館で昼食をとり、自由見学。

■3 月 8 日(日)

午前、自由行動。ユダヤ教シナゴーグ、キリスト教教会などを訪れる。午後、ウエスト・ウイング・アジアの富松裕之氏主催のビジネス交流会。研修先企業の Y's Publishing 花越美雪氏、YT Resolution 高崎康裕氏による講演を聞き、ニューヨーク在住の方々と立食しながら交流した。

■3 月 9 日(月)

ニューヨーク観光。自由の女神、ウォール街、グラウンドゼロおよび 911 記念博物館、国際連合本部を見学。夜、日本食レストランにて会食し、フェリーにて夜景鑑賞。

■3 月 10 日(火)、11 日(水)

終日、自由行動。メトロポリタン美術館、アメリカ自然史博物館、ブルックリン地区などを訪れる。夜はブロードウェイ・ミュージカル、オフブロードウェイの公演を鑑賞。

■3 月 12 日(木)

午前、ニューヨーク・ラガーディア空港をデルタ航空機にて出発、デトロイト空港にて乗り換え。

■3 月 13 日(金)

午後、中部国際空港着。

4. 研修先企業

会社名	主たる業務および URL	研修者
Daily World Press, INC.	日本語新聞『Daily Sun』の発行 http://www.dailysunny.com/	大山リエ、藤谷和翔
H.I.S. International Tours INC.	旅行業 http://top.his-usa.com/city/index.php?tc=NYC	寺澤将成、中川明日香、林紀樹
ICN Group Corp.	国際文化交流事業 http://icnglobal.net/for-students/new-york/	重松歩月、柳原康次、山村峻秀
Ladas & Parry LLP / Strategic Legal Solutions Inc.	法律事務所（NY 州弁護士・奥山英二氏） http://ladas.com/our-people/eiji-okuyama/	伊藤翼、河合真子
New York 留学センター（DEOW Resource Management）	NY に留学する日本人や韓国人のサポート http://www.ny-ryugaku.com/	小崎敬太
O Planning LLC	プロモーション、広告、デザイン、販売代理店 http://oplanning.com/	阿部翔太郎、田中聖也
Weekly Business News Corp.	日本語新聞『Weekly Biz』の発行 http://www.weeklybiz.us/	鈴木健大、中井研太朗
Y's Publishing Co., Inc.	『ニューヨーク便利帳』（季刊）などを発行 http://www.us-benricho.com/	新宮優、横井達哉
YT Resolution Services, LLC	設計、事業コンサルティング http://www.ytrs.us/	竹中将人、中島明穂、中村暢仁

５．お世話になった方々

■研修先の企業の方々

Daily World Press, INC.：竹内由佳氏

H.I.S. International Tours INC.：イワモト セイジ氏、宮澤隆氏、タカサキ ユウスケ氏

ICN Group Corp.：前田 ヒロコ氏、磯田 マリコ氏、Inchel Lee 氏、Ginie Hong 氏

Ladas & Parry LLP / Strategic Legal Solutions Inc.：奥山英二氏

New York 留学センター（DEOW Resource Management）：シモザトアヤナ氏

O Planning LLC：松本 祐樹氏

Weekly Business News Corp.：高橋 克明氏、工藤 亜希子氏

Y's Publishing Co., Inc.：花越 美雪氏、伊藤 佑子氏

YT Resolution Services, LLC：高崎 康裕氏

■ツアー企画に携わってくださった方々

株式会社エイチ・アイ・エス：小川努氏

H.I.S. International Tours INC.：イワモトセイジ氏、宮澤隆氏、タカサキユウスケ氏

ウエスト・ウイング・アジア株式会社：富松裕之氏

その他、たくさんの方のお世話になりました。心より御礼申し上げます。

（文責：宮坂清）

世界の中心で企業研修！

名古屋学院大学法学部

名古屋学院大学法学部主催の「ニューヨーク・スタディ&見学ツアー」が現在、市内で行われている。2月28日～3月13日まで2週間にわたり決行されている同企画は、世界最大の都市ニューヨークを拠点に、同校法学部の20人が企業研修を行うもの。

世界の巨大企業が多数進出し変化し続ける都市で、学生たちは5日間の企業研修、ニューヨーク在住の経営者との交流を通して国際ビジネスを肌で感じ、世界中の文化・社会・生活を実際に体験する。

企業研修では2、3人ずつのグループに分かれ、法律事務所、出版社、旅行代理店などのニューヨークで活躍する有名日系企業で"世界の中の日本"を学ぶ。また、ニューヨーク研修の後はワシントンを訪問し、ホワイトハウス、連邦最高裁判所、ワシントンモニュメントなども見学する。

企業研修を前に全体会議を行う名古屋学院大学一行

Weekly Biz, 2015.3.3

イベントの記録

重松 歩月（Hozuki SHIGEMATSU）

１．企業研修事前オリエンテーション（３月１日）

3 月 1 日。5 日間の企業研修に臨むにあたり、Hotel Pennsylvania の会議室において「名古屋学院大学ニューヨーク研修ツアーオリエンテーション」が行われました。オリエンテーションでは、H.I.S. の岩本氏からニューヨークで行動するうえでの注意について説明があり、続いて O Planning の松本祐樹副社長がニューヨーク滞在中の様々な注意事項やニューヨーク市内の詳細などをレクチャーしてくださり、さらに、ニューヨークで実際に起業し活躍されている Weekly Biz の高橋克明社長が「ニューヨーク起業物語～僕がアメリカに挑んだ理由～」と題して、約 1 時間私たちのために講演してくださりました。

松本副社長のお話を聞き、ニューヨークは日本と違い治安が悪く、何か問題が生じたいときに助けてもらうことが困難な為、自分の身は自分で守り用心を怠らず、普段の日本での生活と同じように過ごしては絶対にいけないということを学びました。

また高橋社長のお話を聞き、どんなことも、その世界に飛び込んで挑戦してみなければ成長することはなく、たとえ何も分からない状態で世界に飛び出しても、助けてくれる仲間は必ずどこかにいるのだから、どんなことも挑戦してみることが大切であるということを学びました。

ウエスト・ウイング・アジアの富松氏より全体説明

H.I.S.の岩本氏より、行動に関する説明

O Planning の松本氏の講演

Weekly Biz の高橋氏の講演

２．ビジネス交流会（３月８日）

3 月 8 日。5 日間の企業研修の締めとして、ニューヨークの企業で実際に活躍されている日本人の方々をはじめ企業研修先でお世話になった方々をお招きして「ビジネス交流会」が行われました。はじめにウエスト・ウイング・アジアの富松氏とのインタビュー形式による Y's Publishing の花越美雪副社長の「高卒の女子がニューヨークで出世した夢のかなえ方」と題する、日本での生活とニューヨークでの生活についてのお話を聞き、その後 YT Resolution の高崎康裕社長による「これからの日本、これからの日本人 ―国際化の中で求められる資質とは―」と題された、パワーポイントを用いたお話を聞きました。花越・高崎両氏の講演後、立食会が催されスタディツアー参加者各々は 5 日間の企業研修でお世話になった企業の方々と研修中の出来事や今後の将来についてなど、さまざまなことを話しました。

花越氏のお話を聞き、勉強であれスポーツであれ、できなくても諦めてしまえばそれでその挑戦はストップしてしまい、これまでやってきたことが無駄となってしまう。だから、難しくてできないことがあっても、諦めることなく、とりあえずそのまま続けていくことが大切である。そうすれば、できなかったこともできるようになるし、結果的にできなかったとしても続けることで耐え忍ぶ力が身に付き、我慢強くなる。ということが「継続は力なり= Practice makes Perfect！」であると理解することができました。

高崎氏は、日本人は自信が持てず、責任を伴う地位に就くことに抵抗感があるのは日本人としてのアイデンティティを喪失しているからだとおっしゃっていました。高崎氏のお話を聞き、私たちはせっかくニューヨークで 5 日間の企業研修を成し遂げたのだから、その経験を活かして、日本人として自信を持ち、積極性をもって何事も挑まなければならないと考えました。

高崎康裕氏の講演

花越美雪氏の講演

アドバイスをいただく

ニューヨークの方々との交流会

２．企業研修報告

DAILY SUN での研修から学んだこと

藤谷 和翔（Kazuto FUJITANI）
大山 リエ（Rie OYAMA）

1. 企業の概要

Daily World Press, INC.（以下、Daily Sun と表記）は、Y's グループという企業グループの一員であり、ニューヨーク（以下、NY と表記）で働いている日本人の会社員や駐在員、また、その家族などをターゲットとした日本人向けのフリーペーパーを発行しています。Daily Sun では、フリーペーパーだけでなく、ウェブサイトにも記事を掲載しており、誰でも簡単に見ることができるようになっています。取り上げられている主な記事は NY の最新ニュースや開催されている・開催予定のイベントの情報、の日本人コミュニティ向けのニュースといった現地の情報、世界や日本の政治・経済、スポーツニュースなど、NY にいても日本のことがよく分かる記事が取り上げられています。記事も日本の新聞と同じような書き方で、とても見やすくなっています。Daily Sun は、月曜日と水曜日、金曜日の週 3 回発行していて、読者に最新の情報を迅速に届けています。

2. 研修の日程

3 月 2 日

午前中は担当者の方から、Daily Sun についての説明があり、自分たちの主な業務が 5 日間に記事を 2 つ書くというものであると聞きました。その後、Daily Sun の記事を読み、最新の NY の時事や世界（主に日本）の時事、NY で生かせる豆知識やイベント情報といった、記事で取り上げられている内容を把握し、自分達がどのような記事を書きたいかを決めました。午後からは再び担当者の方と話をして、自分たちが「イベ

EVENT 番外編

ファッションを通した一生
「Lauren Bacall: The Look」

【日時】 開催中～4月4日(土)
火～金/午後12時～8時、土/午前10時～午後5時
【場所】 The Museum at FIT Shirley Goodman Resource Center
7th Ave at 27 St
【料金】 無料
【Web】 www.fitnyc.edu/museum.asp

ローレン・バコール氏をご存知だろうか。バコール氏は、18歳でモデルとして、1944年に映画「脱出」でデビューをした米国の大女優。

ニューヨーク州立ファッション工科大学(FIT)のギャラリーでは、同校のファッションとテキスタイル専攻の学生による展示、ローレン・バコール「The Look」展を開催中だ。展示はバコールのファッションを時系列で並べたものとなっており、写真、1970年代のファッション、老年のファッションのブースに分けられ、彼女のファッションの注目すべき点を簡潔にまとめているため、コースは短いが内容は濃いものとなっている。

白と黒のコントラストが落ち着いた雰囲気を醸し出す会場内は、照明の数を少なくすることで照らし出される展示品の1つ1つの印象を強くしている。

会場に入ってまず目に付くのは、米国人デザイナーのノーマン・ノレル氏による鮮明なピンクのコートだ。これは映画「Sex the Single Girl(邦題:求婚専科)」で使用されたもので、1970年代にバコール氏がレジェンドと呼ばれるようになった象徴である。また、展示されている1つ1つの写真の中に写るバコール氏の表情にも注目。有名な「The Look」と呼ばれる上目遣いの写真が来場者を迎え入れる。

黒の写真ブースにはiPadが設置されており、展示されていない他のワードロープを見ることができる。

コースの終盤では映像と展示の両方を同時に楽しむことができるよう、「BACALL AND THE BOYS PARIS FASHION」のファッションショーの模様をスクリーンで一部上映すると共に、その中で実際に使用されたドレス、そして彼女の老年のファッションをマネキンを使って展示している。向きやポーズ、間隔がそれぞれ異なるマネキンの例は、来場者を衣装の1つ1つをファッションショーで見ているかのような気分にさせる。中でも、最後尾にあるノーマン・ノレル氏のイブニングセットは一瞬目を引く。一見何の変哲もないコートだが、コートの内側とドレスの全面に金色のスパンコールが施されているため、コートを広げた様は壮麗だ。

バコール氏のファッションの変遷をデビューから老年まで展示しており、ファッションコレクターと呼ばれたほどの彼女のファッション愛を凝縮した展示会となっている。

バコール氏は昨年8月に逝去。マリノン・モンロー氏などと共にハリウッド黄金期を彩った銀幕の大女優のファッション人生を、会場で辿ってみてはいかがだろうか。

執筆を担当した記事 1
「イベント番外編 ―ファッションを通した一生『Lauren Bacall: The Look』」
DAILY SUN、2015 年 3 月 6 日号

ント番外編」と「ニューヨークこぼれ話」という枠を担当させてもらえることになりました。その時に、『The Look』という展示会が NY ファッション工科大学美術館（FIT 美術館）で開催されていると聞き、それを「イベント番外編」に載せるためにインタビューに行くことを決めました。その後、フリーペーパーの印刷に同行させてもらい、帰って来てから翌日のインタビューの準備をしました。

MAR 6 [Fri], 2015 No.2545 TOPICS 14

ニューヨーカーは近すぎる？

日米のパーソナルスペース

人があふれ返るニューヨークで、周りの人と近すぎる」と思った経験はないだろうか。このように、他人との距離が近過ぎて違和感を感じるのは、「パーソナルスペース」なるものが原因なのだという。

人は皆、目には見えない自分だけの精神的な領域を持っている。これをパーソナルスペースといい、他人に近づかれると人は不快に感じる。パーソナルスペースは、親近感を抱く相手に対しては狭く、他人に対しては広く、一人一人が持っているものだけに、どうしても個人差がつきものである。そして男女の違い、人種の違いでもパーソナルスペースは異なってくる。

ニューヨークで電車に乗っていると、まだまだ人が乗れる空間があるにも関わらず、その電車に乗らず次の電車を待つ人をよく見かける。席が空いていても座らずに立っている人も多い。これらの状況を、日本で見かけることはあるだろうか。日本の満員電車では、少しでも多くの人が乗れるように7人掛けの座席には7人きちんと座り、立っている人も混んでいれば奥へ詰めて乗る。しかし、米国人の場合はぎゅうぎゅうに詰めることはせず、車両内には常に空いたスペースがある。それはなぜか。米国人は日本人に比べ、パーソナルスペースが広いからだと言われている。

一般的に米国では乳児であっても親と寝室が別で、子どもはそれぞれ自分の部屋を与えられ、小さい頃から個人のスペースをもっている。また、米国は個人を尊重する国であり、精神面でも行動面でもむやみに他人のエリアに入り込まない。必要以上に他人と接近することを避けるのだ。日本人は内向的なためパーソナルスペースは広いとも考えられるが、それよりも周りへの「気遣い」が勝るのかも知れない。

電車で眺つこの席を好む日本人、真ん中に座る米国人。パーソナルスペースの価値観の違いにより、このような状況が生み出されるのだろう。利用者数が過去最高となり、また雪のためいつもは利用しない人も電車に乗るニューヨークの地下鉄。何かと混み合う電車に乗る際に、パーソナルスペースのことを意識して乗るのも面白いかもしれない。（藤谷／大山）

執筆を担当した記事 2
「ニューヨークこぼれ話 －日米のパーソナル・スペース」
DAILY SUN、2015 年 3 月 6 日号

3 月 3 日

午前中は前日に説明を受けた FIT 美術館にインタビューへ行きました。午後からは自分達が取材してきた内容をノートやワードにまとめ、撮ってきた写真の整理、自分たちが受けた印象や感想などの共有を行いました。そして、これらをまとめて原稿の構成を考え、原稿の下書きを担当の人に提出しました。その後、担当の人のチェックを受けた個所を直し再提出しました。

3 月 4 日

この日はそれぞれ別行動をしました。藤谷は営業に同行させてもらい、「クリニック、運送会社、寿司屋」へ行きました。そして、相手先との商談を間近で体験しました。大山は、前日に作成した下書きのチェックと、載せる写真の配置決め、キャプション決め、文章の追加をしました。その後、Daily Sun が置いてある店へ行き、どのくらい残っているのか、きれいに並べられているかをチェックしました。

3 月 5 日

この日は 1 日中、自分達が書く記事の原稿の作成に費やしました。自分達はパーソナル・スペースについて書くことに決め、その資料集めや原稿の構成、写真などを決めて原稿の下書きを完成させました。パーソナル・スペースとは人が不快に感じる対人間の距離のことです。自分たちは日本人とニューヨーカーの違いについて書きました。夜に、コンサートへの取材に同行させてもらえました。

3 月 6 日

研修最終日となり、前日に書いた原稿の最終チェックを行い、その後、おつかいと、自分達で行きたい所へ行って良いという許可をもらい、NY を見て回りました。

３．企業研修を通じて気づいたこと、感想

研修先を訪れて気づいたことは、自分達が想像していたよりも職場の雰囲気が柔らかかったことです。社員同士があだ名で呼び合っていて楽しそうな職場でした。

自分達は 1 つの記事のテーマを決めるのにも時間がかかり、それを記事にするのに 5 日も使ってしまいましたが、Daily Sun では週 3 回の入稿をしています。限られた時間の中でベストなものを作るというのが理想で、作るだけでなく、どこで手に取られているか、どんな読者がいるのか調査をしてマーケティングに役立てるのも務めと言っていました。

そして、「イベント番外編」という記事を書くとき、読者が見やすくて興味を持ってもらえるような文章や写真の配置を考えることは大変でした。ですが、完成した記事を見て楽しいと思いました。

個別の感想

最も印象に残ったことは、研修 3 日目の営業への同行です。今回、自分は初めて営業というものを体験しました。商談は雑談から入り、最初のうちは穏やかな空気が流れているように感じました。しかし、商談に入ると目に見えるように空気が変わり、緊張感の張りつめた空間に変わりました。2 件目に運送会社に行った際、雑談の時に自分たちが欲しい情報を相手に話させるよう、巧みに会話をコントロールしていると気づきました。この営業への同行の中で、自分が最も関心を持ったことは、聞き出した情報を商談につなげる頭の回転の速さと、想定外の質問を聞かれたときに、答えが分からなくても、自分で答えを作りだし即答する機転でした。自分はこれらのことと、営業の時に言われた「大きな声で元気よく、ハキハキと」は、将来絶対に生きると思い、非常に良い経験をすることができました。今回のことを無駄にしないように日々努力していきます。（藤谷）

私は企業研修も海外も初めてでした。ですから、初日と２日目は特に緊張していましたが、周りの方々が本当に優しくしてくださり嬉しかったです。人の優しさに改めて気づかされた日々でした。そして、大変な仕事をこなしているのに社内は明るくて私も将来こんな雰囲気のところで働きたい

と思いました。

２日目から取材に行き、その内容を記事にするまで大変でした。テーマや文章を考えるときに、どうしたら読者の方にわかりやすく伝わるのか、写真の枚数は多い方がいいかなど、バランスをとることが難しかったです。普段何気なく読んでいる新聞は、様々な過程があってはじめて私たちのもとに届くことがわかりました。私たちが書いた記事も載せてくださり、貴重な経験をさせてもらいました。研修で学んだことを胸に一日一日を大切に過ごしていきたいです。（大山）

参考 URL

www.dailysunny.com

Abstract

We had 5 days training in the office of Daily Sun. The time passed by in a blink of an eye. We wrote two articles of “Personal Space” as “The Look”. ”Personal Space” is the distance with person and the person, and “The Look” is an exhibition held in FIT Museum. It was very difficult to write articles, but was also pleasant. We had very valuable experience. We are most grateful to the staff of Daily Sun.

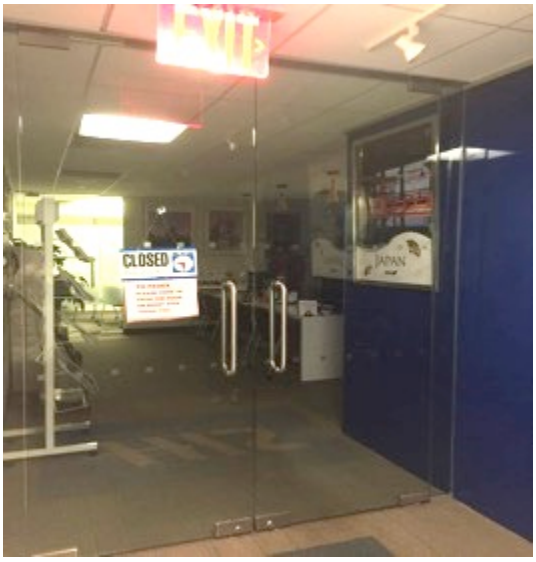
企業研修を終えて
—H.I.S. ニューヨーク—

林 紀樹（Noriki HAYASHI）
寺澤 将成（Masanari TERASAWA）
中川 明日香（Asuka NAKAGAWA）

1. 企業概要

1-1 株式会社エイチ・アイ・エス

株式会社エイチ・アイ・エス（H.I.S.Co.,Ltd.）は、旅行業法に基づく旅行業者です。創業者・初代社長は澤田秀雄氏です。「ツーリズムを通じて、世界の人々の見識を高め、国籍、人種、文化、宗教などを超え、世界平和・相互理解の促進に貢献する」という企業理念のもと、海外旅行および国内旅行の企画・販売手配を行う綜合旅行会社です。



会社の入り口

1-2 ニューヨーク支店

職場では約 50 人の方が働いており、日本人が多く外国人の方が 3 割ぐらいでしたが、外国人の方は日本語が上手で社内でも日本語で会話をしていたので驚きました。どの方もとても明るく親切な方ばかりなので仕事がとてもしやすいと感じました。

職場は 5 番街というニューヨークの中心地にあります。私たちの宿泊したホテルペンシルバニアからは 30 分ぐらい歩かなくてはいけませんが、ニューヨークは地下鉄やバスなどがたくさん通っており、そうした公共交通機関を使えばそれほどかかりません。

2. 研修日程

2-1 日程

	月月日	曜日	内　　容
1	3月2日	月	自己紹介/部署紹介、旅行業務・企業理念についての説明 業務説明（カスタマーサービスについて）
2	3月3日	火	ニューヨーク市内観光への同行
3	3月4日	水	カスタマーサービス（空港・ホテルインスペクション） 市内観光に参加しての感想、改善点についてディスカッション
4	3月5日	木	取引先セールスへの同行 LA 合同インターン研修
5	3月6日	金	ブログ記事の執筆

2-2 研修の詳細

H.I.S.の企業研修に参加するということでツアー内容の案内などを行うと考えていましたが、3 月ということもありデスクワークが多かったです。

1日目

H.I.S.の企業理念などについての説明を受けました。それによれば、H.I.S.は顧客のトレンドをいかに取り入れるかを大事にしています。それによって、どのように顧客満足に繋がるか考え、ツアーを組み立てています。また旅行会社は平和産業であると考えており、世界が平和になるように相互理解の促進に貢献することを目指しているそうです。1 日目ということもあって説明が多かったです。

♪会社の中でランチ♪

2日目

H.I.S.おすすめのニューヨーク市内観光ツアーにお客様と一緒に参加しました。訪問場所についてよく考えられていただけでなく、ガイドさんのニューヨークに関する細かい知識と説明がとてもわかりやすく、楽しい内容でした。この日の仕事は、H.I.S.のツアーについてお客様視点でディスカッションをし、さらによいものへとするというものでしたが、ツアー内容がとてもよくできていて改善点が見当たらなかったです。

3日目

お客様がより満足できるサービスを提供するため、おすすめのホテルとレストランの視察をしました。H.I.S.の従業員の方がそこのサービスについて英語で質問をしているのを見て、H.I.S.のツアーをより良いものにしたいという思いが伝わってきました。

ニューヨーク観光への同行

4日目

取引先へのセールスに同行しました。私たちが想像していたものと違って、初めは相手の方と世間話をして親しくなっていくというものでした。営業先へのセールスとは、何回も繰り返し行うことにより信頼を得るものだとわかりました。

午後はロサンゼルスで企業研修を行っている他大学の方と、ビデオ会議システムを通して合同研修を行いました。研修は保険についてのものでしたが、内容がとても難しくついていけなかったです。

5日目

この日までに自分たちがみてきたニューヨークについてブログを作成しました。また、そのブログの内容を従業員の方々に説明しました。自分たちのブログが H.I.S.のホームページに載ることもあり、達成感がありました。

3. 執筆したブログ記事

H.I.S.のブログサイト「H.I.S.旅ブロ」の「ニューヨーク観光ブログ」（http://blog.his-j.com/newyork/）に記事を執筆させていただきました。

H.I.S.社員の方による紹介記事　2015.03.10
「フレッシュなスタッフ達」

林　2015.3.11
「いざ、タイムズスクエアへ！」

中川　2015.3.14
「雨でも雪でも楽しめるチェルシーマーケット」

寺澤　2015.3.15
「ニューヨークの世界遺産！自由の女神へ！！」

４．感想

4-1 企業研修に参加して

5 日間の研修を通して学んだことがあります。それは、働くということはそれまで考えていたより厳しいものだったということです。大学生だからという気持ちがあったせいか、時間厳守であるのにも関わらず締切までに間に合わなかったり、同じことを何度も尋ねたりしたことがありましたが、社会人には通用しないと教えていただきました。こういった基本的な事のほかに、例えばセールスはまず相手の方との距離を縮めるために相手の方が話しやすい話をする事などを学びました。このように、厳しいことはありましたがやり終えた達成感は大きかったです。

4-2 ブログ作成

今回の研修で大きな課題として出されたのがブログ記事の執筆でした。初めは簡単に出来るのではないかと思っていましたが、タイトルを考えるところから苦戦しました。作るときも絵文字を使いすぎて見栄えが悪くならないようにするなど細かなところにまで気を使いました。3 人ともよいものができたと思うのでぜひ見てください。

アフター5　会社の人とレストランへ

4-3 職場の雰囲気

職場の方からニューヨークに住んでいる方は個性的な方が多いということを聞いていましたが、その通りでした。明るい方が多く、また外国人の方も日本語を上手に話していて、もし働くことになっても安心できると感じました。みなさんとても親切な方ばかりなので仕事もしやすく、とても充実した 5 日間を過ごすことができました。

Abstract

We received company training at H.I.S.. We participated in a tour with tourists and reported on good points and remedies. We wrote blog page articles about the favorite place of the staff of the company. Thank you, all companies.

Marketing Strategy…ICN の５日間
～ビジネスの一般教養を身に付ける～

重松　歩月（HOZUKI SHIGEMATSU）
柳原　康次（KOJI YANAGIHARA）
山村　峻秀（TAKAHIDE YAMAMURA）

1．ICN（International Career Network）での５日間

私たちは、ICN（International Career Network）という企業で 5 日間お世話になりました。2008 年に設立された ICN は韓国系の企業で、ニューヨークに拠点を置いて韓国の学生をターゲットにアメリカをはじめオーストラリア・ニュージーランド・シンガポールなどへの留学や現地でのインターンシップの仲介・語学学校の運営をしています。近年では日本を重要なマーケットと位置づけ、日本の学生をターゲットに留学やインターンシップの仲介も行っています。CEO をはじめ職員の多くは韓国・アメリカ・ロシアなどの方々で、日本人は磯田さんと前田さんの 2 人。今回私たちは、日本人女性職員の磯田さんと前田さんにお世話になりました。

研修 1 日目、この日はオリエンテーションということで自己紹介にはじまり 5 日間の概要説明と研修最終日に行うパワーポイントを用いたプレゼンテーションの詳しい説明を受けました。その後、プレゼンテーションで発表する内容を考え、それを基にインターネットを用いてディスカッションをしながら調査しました。プレゼンテーションは勿論すべて英語。5 日間で学んだことや海外の企業が日本市場へ進出し開拓する際のリスクマネージメントなどについて、インターンシップ生としてではなく「ICN の職員」としての立場に立って調査し、その成果を発表します。

研修 2 日目、この日は研修 1 日目のおさらいとしてプレゼンテーションの発表内容に関する調査・ディスカッションの途中経過を ICN の方々に報告しました。その後、留学生の名簿作成とプレゼンテーションのパ

日本人スタッフの磯田さん、前田さんと

ワーポイント作成を行いました。また、プレゼンテーションに向けた調査の一環として日経電子版を ICN の磯田さんの勧めで閲覧し、記事をそれぞれ一つ選んでその記事について考察しました。

研修 3 日目、この日は研修 2 日目に閲覧した日経電子版の記事について互いにシェアし、その記事についてディスカッションをしました。その後、ICN の Facebook に「ICN 職員の視点」から内容を考えて投稿し、午後からはプレゼンテーションに向けた準備、そしてこの晩にゲストとして参加することになっていた TOASTMASTERS に向け、英語での自己紹介スピーチの原稿執筆とスピーチ練習を開始直前まで行いました。その後、TOASTMASTERS に参加してそれぞれ英語で自己紹介スピーチをしました。TOASTMASTERS というのは、多くの人々の前でスピーチをすることで人との会話に慣れること、またコミュニケーション能力を向上させて会社でのプレゼンテーションなど「パブリックスピーキング」を体得・向上させることを目指しているクラブです。日本にも各地に存在し、名古屋には 5 つのクラブがあります。

研修 4 日目、この日は研修 3 日目の晩に参加した TOASTMASTERS の感想などを ICN の方々に報告し、ICN の Facebook に TOASTMASTERS に参加した感想などを投稿しました。その後、留学ビザの取得時に必要となる書類の調査と留学生の個人情報が記された書類の整理を行いました。

研修最終日の 5 日目、この日はプレゼンテーションのパワーポイントの総仕上げと発表原稿の作成並びに英文作成を行い、本番まで練習をしました。プレゼンテーション終了後研修 5 日間の感想と学んだことを ICN の方々に報告し、インターンシップの修了証書が授与されました。（重松歩月）

2. インターンシップ生としてではなく ICN のメンバーとして…

私はスタディツアーに参加する前に法学部の「リーガル・フィールドワーク」と言う実社会においてどのように法が交わり活躍しているかを法律事務所や地方公共団体などで実務研修を行うことで理解するインターンシップにも参加しました。リーガル・フィールドワークでは地方公共団体に 4 日間お世話になり、主に法制執務という条例等の改廃案の審査や新しい例規の作成に関する業務に携わり、この経験を糧にスタディツアーにおける ICN での企業研修に参加させていただきました。

スタッフと

ICN での企業研修はリーガル・フィールドワークをはじめ日本の多くのインターンシップの様に研修プログラムがすべて計画されておらず、私たちはインターンシップ生としてではなく同じ ICN の職員として自らが主体となって英語でのプレゼンテーションなど様々な企画を立案しました。そこでは日本の様な受け身姿勢での研修とは違い、職員の方々に指示を仰がず失敗を恐れずに積極的な姿勢で臨むことが重要でした。この様な点が日本のインターンシップと海外のインターンシップの異なる部分ではないかと私は考えました。

また公共団体と ICN の様な海外の民間企業を比較すると、公共団体は公の利益や福祉の向上を目的として活動しているため業務内容が一つの分野に範囲が限られてしまいチャレンジ精神・ベンチャー性が民間企業に比べると薄くなる傾向がありますが、民間企業は多くの場合営利を目的に利益追求を第一に考えているため様々な分野に事業を展開し公共団体よりも面白味があります。

特に ICN は海外の企業でありかつスタディツアーの企業研修先で唯一のアジア系企業でありながら、世界の大国たるアメリカのニューヨークで他の企業がひしめくなか事業を展開しています。私は ICN の事業に研修前よりも興味を抱いたのは勿論ですが、ICN の様なアジア系企業の海外での活躍にも興味を持つことがで

きました。

ICN での 5 日間の経験は今年成人を迎え大人の仲間入りをした 20 歳の私といたしましては、これからの生き方を考えるうえで大きなターニングポイントになりそうです。ICN で培った経験・スキル・技術を糧にこれからも頑張ります。

最後になりましたが、ICN の Inchel Lee CEO をはじめ Academic Counselor の前田ひろこさん・Marketing Manager の磯田まりこさん、そしてすべての ICN メンバーのみなさん、短い間ではありましたが 5 日間ありがとうございました。（重松歩月）

３．ビジネスの一般教養を身に付ける

私が ICN をインターンシップ先に選んだ理由は、第二語学で中国語を専攻しており、ICN で働いている方々の中に中国の方がいらっしゃるので、自分が学んだことを生かせると思ったためです。ところが実際は、なかなか話すチャンスがなく、英語を使うことが多かったのでそんな甘い考えで企業先を決めたことを後悔しました。

Toastmasters の発表リハーサル

私はこれまで、インターンシップを体験したことがなかったので、とにかく失礼のないようにと挨拶を必ずするといったような当たり前のことを心がけ、礼儀正しくすると自分の中で意気込んでインターンシップに挑みました。また、言い方は悪いですが学生という立場を利用して、わからないことについてはどんどん質問していくこと、メモをとりいつでも質問できる体制にしておくと同じインターンシップ先に勤める友達と決めて挑みました。

Toastmasters **の方々と**

1 日目の午前中に実際に仕事を体験してみて自分たちで決めたことが全くできていなかったので、昼休憩のときに 3 人でいきなり反省会を開き、これからの仕事に対する姿勢を変えていこうということになり、その日の午後からわからないことや気になったことはとにかくメモをとるようにして仕事に挑みました。

私たち 3 人は全く英語ができなかったため、最終日に行ったプレゼンテーションの文章や話す内容の英文をすべて磯田さんに日本語から英語に直していただきました。ニューヨークに来る前にもっと英語の勉強をしておけば磯田さんの負担が少しだけですが減らせたはずなので、来る前にきちんとしておくべきだったなと自分の準備不足を悔やみました。

インターンシップを経験して感じたことは、ICN の方たちは私たち 3 人をインターンシップ生としてではなく社員と同じ立場としてみてくださったので、自分たちが必要とされていると思いいっそう仕事を頑張ろうという気になれましたし、同じ立場でやっている以上は ICN に対して失礼のないようにと仕事に対する思いが強くなりました。5 日間という短い期間でしたが ICN で働けて本当によかったと思いましたし、ICN の方々にたくさんお世話になり本当に感謝しています。（柳原康次）

4. Public Speaking

今回ICNで企業研修をして私は良い経験がつめたと思っています。ガイダンスの時に研修先が ICN に決まった時はひどく緊張しました。そもそも私は英語が全く出来ず、自分に自信が持てず、積極的に話すことが苦手でした。今回のプログラムに応募した時も自分を変えるきっかけを作る位にしか考えていませんでした。そんな時にオフィス内が英語の ICN に決まった時は頭の中が真っ白でした。だから ICN に研修に行く道中内心不安で仕方ありませんでした。幸い仲間が 2 人いたのが救いでした。それでも ICN のスタッフさんと会話するときは緊張のあまり口の中がカラカラになりましたが、やさしいスタッフの人が多くこちらのことを気遣ってくれました。すごくうれしかったです。また、ICN での業務日程としてスライドの作成をしてそれを研修の最終日に発表すると聞いたときは、冷や汗が出ました。

それでも ICN で過ごした時間は今まで感じたことがないほど充実していて、最終日の発表まであっという間でした。緊張はしましたが、自分の中では満足のいく結果になりました。この他にも 3 日目の業務終了後に行った TOASTMASTERS という人前で話す練習をするクラブに参加させてもらいました。途中で道に迷ってしまい開始時間には間に合うことができませんでしたが、ニューヨークの人達が親切に道案内してくれたので無事たどり着くことができました。TOASTMASTERS に参加するにあたって自己紹介を英語でしました。人前で話すことは慣れていませんでしたが、いい経験になりました。ここでの経験のおかげで最終日のプレゼンで緊張はしたもののしっかり話すことができました。

ICN の Facebook ページに掲載された発表の様子
https://www.facebook.com/pages/ICN-Group-Corp-JAPAN/1391426724490390

今回の研修で私は、少し自分に自信を持つことができました。最初は不安ばかりでしたが、あっという間に終わってしまったのでもっと長い期間体験したかったです。（山村峻秀）

5. 総括～Marketing Strategy～

研修初日、私たちは ICN の職員の方々とうまくコミュニケーションを図ることができず研修に対する臨む姿勢自体、正直のところ消極的でした。しかし、このまま 5 日間を過ごしてはいけないと考え初日の昼休憩中に反省会を行い、これからの研修に臨むにあたって今一度考え直しました。この様な取り組みもあってか、ICN での 5 日間を有意義なものとすることができました。また、一度己を見直すことでこれからの課題が見つかり、それを達成するために 3 人の英知を結集させ、最終的に ICN の方々が私たちインターンシップ生に望んでおられた「ビジネスの一般教養」即ち Marketing Strategy をできる限り体得し、また ICN の職員という立場に立ってビジネスの一般教養を考察することもできたと自負しております。

最後になりましたが、ICN の CEO をはじめ前田さんと磯田さん、そして ICN のすべての職員及び関係各位に改めてお礼申し上げます。5 日間という短い間でありましたが、私たちをここまで育てて下さりありがとうございました。（重松歩月）

社員の方々と

6．後日談（2015 年 4 月 28 日）

4 月 28 日、日本の学生に ICN の活動を知ってもらおうと磯田まりこさんが名古屋学院大学（国際センター）にお越しくださいました。磯田さんからは「ぜひとも、インターンシップ中に参加した TOASTMASTERS での経験を活かして英語スピーチコンテストや名古屋にある TOASTMASTERS のクラブに参加して、これからも英語のスキルと人前で話す力（Public Speaking）を向上させてほしい。」とメッセージをいただきました。私たちは「ICN のインターンシップ生」として、磯田さんをはじめ ICN の皆さんからの期待に応えなければなりません。ICN でのインターンシップを契機に、私たちは英語をもっと勉強し Public Speaking を磨き人前で話す力を向上させ、社会の一員としてリーダーシップを発揮できるよう頑張ります！

（重松歩月）

Abstract

We successfully completed the internship program from 03/02/2015 to 03/06/2015.

Topics covered:
・Learning the ICN's business.
・Brainstorming about SNS Marketing Strategy.
・Attending a marketing meeting discussed in English.
・Reporting the internship experience daily in English.
・Building a teamwork by working together.
・Downloading and Reading Nikkei News Paper online, and sharing thoughts.
・Preparing for self-introduction in English.
・Participation in DeVry-Keller NY Toastmasters club and experience public speaking in English.
・Lessons about how to make a speech / presentation slides.
・Preparing for power point slides, and giving a presentation in English front of all staffs.

ニューヨーク企業研修
― 弁護士事務所での特別な５日間 ―

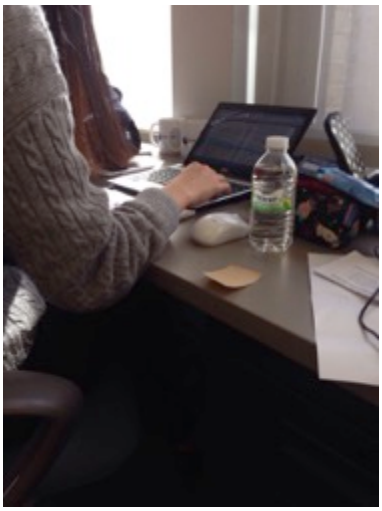
伊藤 翼（Tsubasa ITO）
河合 真子（Mako KAWAI）

1. 研修先について

今回、私たちはニューヨークで弁護士として活動している奥山英二弁護士のもとで 5 日間研修をした。奥山弁護士は、2002 年の 10 月に Strategic Legal Solution Inc. を設立、さらに 2008 年 1 月から Ladas & Parry LPP. のニューヨーク事務所にも勤務している。日系企業や日本人をクライアントとしており、ビジネスのアメリカ進出を支援している。具体的には、米国事務所設立の手助けや契約書の作成、特許申請・商標登録申請などの業務を行っている。

2. 研修日程、内容

１日目　午前　Ladas & Parry LPP. の事務所で顔合わせ、課題の確認
　　午後　Strategic Legal Solution Inc.の事務所で資料作成（①）
　　以降すべての作業は Strategic Legal Solution Inc. の事務所で行った



２日目　午前　資料作成（①）
　　午後　資料作成（②）
３日目　午前　資料作成（②）
　　午後　資料作成（③）、物件の見学、公証人の方との交流
４日目　午前　資料作成（④）
　　午後　資料作成（③）
５日目　午前　資料作成（③）
　　午後　裁判所見学、作成した資料の添削、反省会

※資料作成について

①…ＮＹで１万ドル（または 50 万ドル）の訴訟をしたいと日本人のクライアントから依頼があったときに何をどのように説明するかをまとめる。

【実際にどのように１万ドルの件についてまとめたか】

あなたはニューヨーク市に在住で、今回は訴訟額が 10,000 ドルですので NYC Civil Courts（ニューヨーク市民事裁判所）に訴えることになります。その後不服があり控訴するなら Appellate Division of Supreme Court （日本でいうならば高等裁判所のような存在）に、さらにそこから上告するなら Court of Appeals（上訴裁判所、日本でいうなら最高裁判所）に訴えることになります。しかし、日本と同じように Court of Appeals では州の憲法判断などを

含むため、実際にそこまで行く可能性は低いです。

また費用についてですが、初期費用として 25 ドルと郵便費用が必要です。また陪審裁判を希望されるのならプラス 70 ドルを裁判所に払う必要があります。また支払方法は現金、保証小切手、マネーオーダー、銀行小切手のどれかでする必要があります。つまり、個人小切手は使えません。弁護士費用もこれとは別に必要になります。

②…ＮＹにおける公証人制度についてまとめる。

私は、公証人のなり方、登録方法、料金などについてまとめた。さらにこれをクライアントに説明するということを想定し、どこで公証人に会えるのか、日本語対応してくれるのかなどについてもまとめるとさらに良い。

③…Web 上にある雇用契約書(Employment Agreement)、機密保持契約書(Non-disclosure Agreement)に目を通し、それぞれの契約書の主要な項目をピックアップしまとめ、契約書のフォームを考える。

【雇用契約書の場合】

まず、10 くらいの契約書の項目に目を通し共通であると思われる項目をまとめる。（例えば、Term、Salary、Bonus、Benefit など）それらの項目にどのようなことが書かれているのかについて理解する。

④…グリーンカードの申請に必要な資料の印刷とファイリング作業。

右のように作業した。

３．個別の感想

海外で初めて企業研修をするということで初めは不安で堪らなかった。しかし、実際に研修を受けるまでの間に奥山弁護士とメールや LINE でやりとりをすることができ、不安も少し解消された。また、法律事務所で研修をするということでアメリカ法についての本を課題として読み、アメリカ法だけでなくアメリカの弁護士についても事前に知ることができた。

実際に研修が始まるとまず英語に苦戦した。今回、私が作成した資料①、②は対クライアントを想定している。そのためソース（引用元）がどこであるかということも問題となる。もし間違った内容を伝えればそれだけで信用問題になるのだ。例えばアドレスに gov とあるものは政府が作成したものである。それをもとに資料を作成していくのだがここで英語力が問われるのである。当たり前だがすべて英語で書かれている。翻訳サイトなどを使ってもちぐはぐな訳が出てきたりして、結局自分で少しずつ訳しながら作業を進めることになった。そのため最初の下調べの段階で多くの時間を割くことになってしまった。

次に、まとめ方にも苦戦した。今までレポートというような形でしか何かをまとめるということをやっていなかった。そのせいか、最初に私が作成した資料①には“アメリカが連邦制であり、そのため州ごとに法律があり、裁判所があります。ＮＹでは… ”などの長い説明があり、ようやく本題に入るという構成になっていた。それを意気揚々と奥山弁護士に見せたが「説明はいらないね。」と一言。私は最初たくさん説明があった方が歴史的背景や流れも分かりやすいと思っていた。しか

し奥山弁護士は「クライアントはお金を払って相談に来ている。その大切な時間を長々した説明に充てるのが有効かそれとも簡潔に疑問に答えるのが有効か、どっち？」と、答えは確実に後者である。そう、私にはクライアントの立場で考え答えるということが欠落していたのだ。クライアントの立場で何を聞ければ不安がなくなるのか、具体的には費用のことや敗訴した場合のことなど今まで気づかなかったことが見えてくる。これを盛り込むことでより内容の濃い答えをすることができる。ただ、私が長い説明をするために調べたことが無駄かというとそうではない。奥山弁護士曰く、「クライアントに内容を話すときその言葉の裏には多くの不要な情報がある。しかし、その不要な情報があるからこそクライアントに話すことができ、その場で疑問が生じれば解決することができる。」つまり、多くの情報をどう選別していくかがポイントである。ただ、すぐに頭を切り替えることが出来ず、なかなかクライアント目線の回答を出せなかった。しかし、この目線の切り替えができるようになれば将来、会社でクライアントに説明したりする際に大きく役立つスキルである。今までとしてなにかの説明を受けたりすることはあったが説明する立場に立ったことはなかったのでとても新鮮な体験だった。

さらに奥山弁護士のアシスタントの方が公証人であるので実際に公証人が使う仕事道具を見せてもらい、また私が作成した資料②に誤りがないかを確認してもらった。（日本で公証人というと公正証書を作るという印象を持つがアメリカではそうではない。例えば、日本で重要な書類にハンコを押すときは印鑑証明書を提出することで押されたハンコが本当に本人のものであるのかを証明する。しかし、アメリカはサイン社会である。そのサインが本人によって書かれたものであるということを証明するのがアメリカの公証人の役割である。）作成した資料に誤りは無かったが、ところどころわかりにくい表現がしてあった。そのため、クライアントに対して説明するにはもう少し改善する必要があるとされた。今回の資料は作成後の読み直し不足が問題であり、これはどのようなレポートや資料作成にも共通する。作成直後だけでなくその後に時間があれば１日後などに読み返すことで間違いの訂正や内容をより良いものに変えることができる。今後に役立てたいと思う。

今回、実際に研修をしてみて英語というものは単なるツールであるということを感じた。しかしそのツールを使いこなせることで日本だけでなく世界という広いところで活躍できるのだと思った。私自身、英語には自信がなく今回の研修にあたって作成したエッセイもあとで読み返してみると本当にひどい仕上がりであった。また研修において、自分の英語力の乏しさも実感した。そして、もう一度英語を学び直してみようとも思った。

また、今回の研修で奥山弁護士とアシスタントのみえこさんという素晴らしい人生の先輩に会えたことは本当に嬉しく思う。今まで、英語が苦手でアメリカで働くということなんて考えたこともなかったが、研修をしたことで海外に出てみるのもいいなと思った。さらに、自分の直すべきところや今後の社会に出たときに必要になるスキルなどを知り、身に付けることができた今回の研修はとても有意義なものだった。ありがとうございました。（河合）

Abstract

We were very glad to be able to participate in this training. During five days, we learned a lot. This training was a very good experience for us. I never forget this experience. I study English once again. And I want to go to NY again. (KAWAI)

私は企業研修に行くことはおろか海外へ行くこと自体が初めてであり、このスタディツアーに応募しようと考えた際に、自分の中でどのみちどこかで苦労することが必ず出てきて悪戦苦闘することは目に見えていたはずだった。しかし当初は研修も含め「凄く面白そう」「今後の自分の先を考えた時、大きな経験値になるだろう」と思っており、それに加えて「正直なんとかなるだろう」という考えもあり、正直後者の考えの方が大きかった。

その後、無事参加することも決まり、研修先も決まり後はその時がくるのを待つだけだった。結論から言って、なんとかなることの方が圧倒的に少なかった。初日に奥山弁護士から渡された 5 日間のスケジュールは自分にとってとても難しいもので、資料作成するにあたって必要になる正確な情報を英語のサイトの中から探し出し、その情報を和訳し、法律に詳しくないクライアントにも理解ができるように、且つ相手方が欲している情報だけを出し、必要としていない情報を省くというものだった。初期段階の作業である公式情報をサイト内から探し出し、和訳するという作業だけでも自分には手一杯だった。分からない単語を一言一句調べ意訳して文を入力する作業は中々時間を取られ、お世辞にも良い出来とは言えないものになってしまった。研修からホテルへ戻った後も、勿論他の皆も同じ条件だが、海外の慣れない環境で生活することに気力を使い、日に日に疲労が溜る 5 日間だった。今回の研修を通し、いくつか思うところがあった。1 つは、「英語のスキルは今後必要なもの」だということ。研修先で作業をしている間、中学から英語の授業を受けてきてだいぶ経つというのにこんなにも読めない語句が存在するということ、そして世界各国で英語が公用語として使われている中、当然これから自分が何をするにしても、関わりを持つ言語だということを以前よりも感じることができた。2 つめは「社会というものを知ることができた」こと。漠然としかつかんでないのかもしれないが、アルバイトとはまた何か違う雰囲気や責任感などを感じ取ることができた。3 つめは「客観性が大事」だということ。これは他人と一緒にいるときにも重要なものではあるが、社会においても相手の目線で物事を考え、行動するということはとても大事であり、しかしそうでありながら相手を知り、相手の目線に立って考えるのは容易ではないということを改めて感じた。

今回の研修を通じて「なんとかなるだろう」という軽率な考えは控えるべきだと感じた。例え対策が見つからなくても対策する姿勢があるかないかだけで大きく状況は変わってくるだろうと思った。しかし一方では、確かに色々と苦い思いをし苦労もしたが、もしこのツアーに参加する前にこれらを想定し、参加することをやめていたら最後まで漠然としかわからないままであることは明確である。だとすればこの行動や経験は自分にとって必要なものだったのであり、行動することにどれだけの意味があるかを知ることができたことになる。これからも行動することに億劫にならずに動いていきたいと思う。（伊藤）

Abstract

I have gone through tough days on training in NY. But I learned a variety of things and I grew for sure through this experience. I try to do my best from now on. (ITO)

インターンシップを終えて
― ニューヨーク留学センター ―

小崎 敬太（KOZAKI Keita）

1. 職場紹介

私は 2 週間スタディツアーでニューヨークに行ってきました。このスタディツアーの目的は企業研修をさせていただくことで、私はニューヨーク留学センター（運営元：DEOW Resource Management）で 5 日間研修をさせていただきました。

ニューヨーク留学センターは日本人が安心してニューヨークに留学できるようにサポートする業務を行っています。また、ニューヨークに留学している日本人が何か困ったり、問題を抱えたり、トラブルがあった時に対応する業務もしています。

2. 研修内容

企業研修 1 日目の主な業務は以下のとおりでした。①仕事のプロセス（日本人がニューヨークに留学するためのサポート：例えば、ホームスティ先や泊まる先の確保、空港までの送迎、生活のサポート）の確認をしました。②ニューヨークに新しく留学する日本人の情報が紙に記載されている情報と一致しているかを確認し、一致していたらその情報をパソコンに入力しました。③直近 10 日間に来る予定の日本人留学生向けにニューヨークに関する情報（例えば、ニューヨークの治安、危ない地域や安全な地域はどこか、美味しいレストランや買い物するお店はどこにあるか）などの資料を集め、それをまとめる作業をしました。④その資料を今後ニューヨークに留学する日本人が来たときに渡すことができるように冊子にまとめました。

企業研修 2 日目の業務は以下のとおりでした。①Be Fluent という語学学校の見学に連れていってくださるということだったのでその学校の下調べをしました。②その学校についてブログを作成するということだったので練習のために簡単なブログ作成をしました。③その学校に見学に行き、オフィスのデジタルカメラでブログ作成用の写真を撮りました。また、先生方に(1)どうしてこの仕事に就こうと思ったのか、(2)どのような目的でこの仕事に取り組んでいるのか、(3)この仕事をやって喜びやうれしさを感じるときはどういうときか、といった質問を英語で行いました。④Be Fluent についてブログを作成しました。

企業研修 3 日目の業務は以下の通りでした。①この日よりダンス教室に通う日本の方がいらしたのでその教室まで道案内し、受付のお手伝い(通訳など)のお供をしました。②ニューヨークに来て初めて地下鉄に乗り、Embassy という英会話教室に見学に行きました。この日もデジタルカメラで写真を撮り、先生方に英語で取材を行いました。③Embassy についてブログを途中まで作成しました。

企業研修 4 日目の業務は以下のとおりでした。①1 日目と同様、日本人留学生向けのニューヨーク情報を一つの冊子にまとめました。②前日に途中で終えてしまっていた Embassy についてのブログ作成を引き続き行いました。

企業研修最終日の 5 日目の主な業務は以下のとおりでした。①2 日目と同様にこの日からニューヨークに留学する方がいらっしゃったのでその方のサポート（学校までのルートの確認、ニューヨークで暮らすにあたっての注意など）をしました。②Kaplan という語学学校に見学に行きました。この日もデジタルカメラでブログ用の写真を撮り、英語で取材を敢行しました。③Kaplan についてブログを作成しました。

作成したブログ記事
「Be Fluent NYC に行ってきました！」
http://nyryugaku.exblog.jp/23614960/

３．研修を終えて

私はこの 5 日間を通して、心がけたこと、感じたことがあります。まず、心がけたことは、言葉遣いです。今まで企業研修を経験したことがなかったので、5 日間言葉遣いは気つけようと心がけました。企業研修初日はとても緊張していましたが、最初の印象を良くしようと思って特に心がけました。また、職場の方に失礼がないようにマナーや礼儀も気つけました。

次に、感じたことは以下の 2 点です。①自分の英語力のなさを痛感しました。学校見学の際のやりとりはすべて英語であり、自分の英語が通じなかった時が多く英語力が足りないと思いました。しかし、別の学校取材の時に身振り手振りを多用したことで通じることが多かったので、身振り手振りを利用すれば伝わりやすいと感じました。今後、英語は必要になると思うので英語の勉強を頑張りたいと思います。②失礼のない言葉遣いや礼儀、マナーを心がけていたのですが、実際に企業研修をやってみて自分にはまだまだ全然身についていないと感じました。私が知っている範囲で努力したのですが全然対応できなかったので、これから完璧に身につけるように勉強したいと思っています。

私はこの 5 日間のインターンシップを終えて、自分の好きなこと、苦手なことなど、自分のことをさらに知ることができたと思います。これからはここで学んだことを活かしていけるように頑張っていこうと強く思いました。最後にこのような貴重な機会を設けてくださった名古屋学院大学の先生方、短い期間ではありましたがインターンシップに協力してくださった企業の方々、ありがとうございました。とても感謝しております。

参考 URL

ニューヨーク留学センター「NY スタッフブログ」http://nyryugaku.exblog.jp

Abstract

I had very valuable time for two weeks in New York. I joined this Internship program to realize my dream. Though I felt difficulty with honorific, Japanese and English at first, I am convinced I have progressed a little. I will continue to grow myself by using the experience of this Internship.

NY 企業研修を終えて
—O-Planning—

阿部 翔太郎（Shotaro ABE）
田中 聖也（Seiya TANAKA）

１． O planning とは

プランニング業務、広告代理業務、販売代理業務の三つの業務を主としてさまざまな方面で活動しています。プランニング業務では、日本の東京とニューヨークのネットワークを駆使したくさんのプランニング手法を提案しており、ニューヨーク支部は広告代理業務と販売代理業務を主に展開しています。広告代理業務では、オンラインからオフラインまでメディアを提案しています。オンラインでは Google や Facebook に広告を掲載しており、オフラインでは、日本、北米、ヨーロッパの各日系メディア（新聞、テレビ、ラジオ）に展開しています。また個人の方の海外進出サポートも行っています。販売代理業務では、日本在住者向けサービスとして、海外携帯電話の販売やレンタル、海外使用向け WI-FI ルーターの販売やレンタルをしているほか、アメリカ在住の日本人向けに携帯電話を販売しています。

O Planning のサイト http://oplanning.com/

２． 研修の日程と詳細

今回の企業研修では、まず、フリーペーパーや新聞（『ニューヨーク経済新聞』）、雑誌（『ODORU』）に載せる記事の内容に間違いがないか、またその情報が正しい情報なのかを確認するため、出所・ソースを探すというリサーチ作業を行いました。『ニューヨーク経済新聞』は、ニューヨークの旬な情報やビジネス、カルチャーニュースを配信しています。パソコンや携帯電話から閲覧可能であり、アメリカ国内の日本人だけではなく日本にいる日本人も閲覧しているため、間違った情報を載せて発信することは許されません。したがって間違いを修正する作業は大変重要です。しかし、普段パソコンを使わないため、情報の発信源を突き止める作業等々やり慣れないことばかりでとても苦戦しました。ひとつの情報の出所を探し出すのに何時間と

１日目	獲得データの資料まとめ
２日目	リサーチ作業、獲得データの資料まとめ
３日目	リサーチ作業、獲得データの資料まとめ
４日目	リサーチ作業、携帯端末の料金まとめ
５日目	携帯端末チェック、使用料金チェック

かかることもありました。

次に行ったのは携帯電話に関係した業務で、今回の研修のなかでもより多くの時間をかけました。携帯電話関係の仕事が多い理由は、O-Planning が携帯電話の貸し出しや、機種変更に必要な各種の手続きなどの業務を行っているからです。具体的には以下のような作業を行いました。

ニューヨーク経済新聞のサイト
http://newyork.keizai.biz/

まず、携帯電話の使用料金をチェックする作業を行いました。これは、取引先の携帯電話会社のWeb サイトにログインし、月ごとの使用料金を項目ごとにすべて抜き出すという作業です。次に、返却された携帯端末に不具合がないかどうかをチェックする作業を行いました。主なチェック項目は、しっかりと電源がつくかどうか、電源がついてしっかりと画面が映っているか、しっかりと操作できるか（誤作動がないか）等でした。また、チェックが終わった端末は、使用者のデータが残らないように初期化作業を行いました。さらに、携帯端末の機種変更や新規で新しいプランに変更した人がどれだけいるか等を把握するために獲得分析というデータを一覧表にまとめました。この獲得分析のデータには、新しいプランに新規で契約をした人が月に何人いるか、来店した人たちはどんな情報を見て来店したのか、来店した方の年齢はいくつくらいだったのか等が含まれます。この仕事はより正確性を求められるため、二人で同時並行して行い、二人で照らし合わせながら行いました。

最後に、電話対応です。私たちは 2 日目から電話対応をさせていただきました。電話対応の内容は、日本語だけでなく英語で伝えられることも多かったので、いい経験になりました。

３． 感想

今回、ニューヨークでの企業研修というとても貴重な体験をさせていただきました。今回の企業研修は作業が多く、とても大変な 5 日間でしたが、その分とても充実した時間だったと感じました。なかでも今回は、Excel を扱うことが多かったので、Excel の復習という面でも、いい勉強になりました。また、2 日目から電話対応をさせていただきました。アメリカの企業なので、もちろん英語でかかってくる場合もありますが、任された以上、責任をもって対応するよう心がけました。このような仕事をさせていただき、その上企業の方々も優しく接してくれる方々ばかりだったので、とても仕事がしやすい環境下で職業体験をすることができました。また、企業の方々とは、一緒に昼食をとったり話をしたりと、仲良く、楽しく接することができました。今回、このような素晴らしい企業研修を行うことができたことに対して、企業の方々、周囲の方々への感謝の気持ちを忘れず、これからも日々勉学に励みたいと思います。

参考 URL

O Planning：http://oplanning.com/

ニューヨーク経済新聞：http://newyork.keizai.biz/

Abstract

We received the company training in O-planning for five days. We had many experiences. For example, researching the data source of articles of newspaper, data entry and answering a telephone in English. We thought that it was good experience because we would enter data in Excel in the future. We want to make an effort without forgetting this experience in future.

Weekly Biz で研修を経験して

鈴木 健大（Kenta SUZUKI）
中井 研太朗（Kentaro NAKAI）

１．企業概要

私たちは、Weekly Business News Corp.（以下、Weekly Biz と表記）という会社で研修をさせていただいた。この会社が発行する週刊情報紙”Weekly Biz”は、ニューヨークから全米に向け、政治、経済、 産業、金融など日米の最新ニュース、文化、エンターテインメントに至るまでの最新情報を発信しており、女性向け生活情報や、子供向け医療情報も掲載している。会社に勤めている方々から主婦層まで幅広く読まれている。

Weekly Biz, 2015.2.28.

社長の高橋克明氏が自らインタビューを行っている「ガチ！」という人気コーナーでこれまでにインタビューした著名人は 200 人を超えており、その職業はミュージシャンや俳優、スポーツ選手などジャンルを問わない。

この Weekly Biz のオフィスで私たちは 5 日間という短い期間ではあったが、多くの貴重な体験をさせてもらった。

２．研修内容

初日は、アメリカで行われているイベントについての記事を書かせてもらった。日本人の方が主催、あるいは主役であるイベントの記事が多いのだが、イベントの記事の基本的な書き方、言葉の使い方、文章の構成の仕方などを学んだ。実際に記事を書いてみると、自分で思っているよりも言葉使いなどがうまくできていないことがわかり、文章を書くことのむずかしさを感じた。

オフィス

2 日目は、営業をさせてもらった。まず電話をして、Weekly Biz に広告を載せてもらえるか、店に Weekly Biz を置いてもらえるかなどについて交渉し、面談の約束が取れたら直

接会って交渉するのだが、日系の企業だけでなく現地の飲食店などとも交渉を行うため、やりとりはすべて、基本的に英語で行う。この一日だけでも私たちは 50 を優に超える企業に電話をかけた。事前に交渉についてのマニュアルを渡されたのだが、その通りにはなかなか行かず、私たちの英語が通じにくかったりして、まったくと言ってもよいほどアポイントメントを取ることができず、言葉を伝える難しさを痛感した。この営業は社員の方の話によると、「10 件電話をかけて良くて 1 件、1 日に 1，2 件とることができればラッキー」だというのを聞いて、営業や取引の難しさを感じた。

3 日目は、その週に発行する新聞の入稿日であり、初日と同じように編集作業を行った。まず、同じ日系の他社の新聞のチェックを行い、どのような内容の記事が書かれているかの調査を行い、「ゲラ読み」と呼ばれる新聞の広告を載せる前の記事の添削を行った。私たちはイベントの記事と、自社記事と呼ばれる記事についての表現や誤字などの確認を行った。また、この日に発送の準備を行うために、封筒にラベルを貼ったり、1 部のみ送付する企業には紙帯の用意をしたりと、多くの作業があった。

4 日目には、実際に印刷所まで赴き、新聞が印刷されている工程を間近で見ることができた。そこでは印刷の際にインクの筋が入ってしまっていないか、色が薄くなっていたり、濃くなって顔が認識できなかったりということが起こらないように、自分たちの目でしっかりと確認を行うとのことだった。

そして最終日、次号の新聞に掲載するイベントの記事を書かせていただいた。そして印刷された新聞をそれぞれの企業へ郵送したり、近場の場合は自分たちの足で歩いて届けに行った。

研修の様子

３．企業研修で感じたこと

5 日間という短い期間でしたが、新聞ができるまでの一連の工程を見ることができ、また私たちがそこに少しでも携わることができ、本当に貴重な経験をすることができたと思います。

営業では会話は全然と言っていいほどできていませんでしたが、「進んでチャレンジしていくこと」ということを、私たちより先に自ら単身アメリカに来て、Weekly Biz で働いている方に教えていただき、日本でも進んで色々なことを学んでいこうと思いました。

このような機会を与えてくださった、学校の方々はじめ、私たちの研修を受け入れてくださり、多くのことを教えてくださった Weekly Biz の皆様、そして関係するすべての方々に感謝をしつつ、学んだことを生かし励んでいきたいです。（鈴木）

この企業での研修はとても有意義な時間でした。自分が新聞の記事を書くということを考えたことがあまり無かったので、実際に体験することで、自分の可能性や、自分自身を見つめなおすことができました。そして、懸命に取り組んでいくことで、1 つのものを完成させるという達成感と、自らの英語の能力の未熟さなど様々なことを感じ、日本にいては、決して感じることのできないことを知りました。この機会をくださった家族、学校、企業研修においてお世話になった皆様、そして研修を受け入れてくださった、Weekly Biz の皆さんには大変感謝しております。（中井）

４．まとめ

今回のスタディツアーで私たちは、新聞というメディアができるまでの過程と、アメリカにおける日本企業の営業などの活動を自らの身体で体験した。そこでわかったのは、新聞を作るのには多くの過程があり、週刊となると迅速かつ丁寧な仕事が求められるということだった。更に、アメリカ含め海外で働こうと思うのならば、語学の勉強はもちろんのことながら、働く国の文化や慣習、それらに関する事項などもしっかりと理解したうえで、根気よく続けることが必要になってくると感じた。もし、海外で働くことがあるのならば、しっかりと学んでいきたいと思う。

参考 URL

Weekly Biz （ウィークリー・ビズ） http://www.weeklybiz.us/

ニューヨーク・インターン報告
—Y’s Publishing—

新宮 優（Yu SHINMIYA）
横井 達哉（Tatsuya YOKOI）

1. Y’s Publishing とは

アメリカに住んでいる日本人やこれから住む人向けに「便利帳」シリーズを刊行している会社です。「便利帳」は主に地域の観光スポットや名物に関する記事を掲載しています。もし海外で病気になったらどうしたらいいか、日本の料理が食べたくなったらどこに店があるかなど、住んでいて気になることや不安を解消できることも書いてあります。現在はニューヨーク、シカゴ、デトロイト、ボストン、ワシントン DC、アトランタ、アラバマ、テネシー、シアトル、ポートランド、ダラス、ヒューストン、オハイオ、インディアナ、ケンタッキー、サンフランシスコ、サンホゼと全米 17 都市以上で出版しています。

『ニューヨーク便利帳 vol. 23』

2. 研修内容

2-1 「便利帳」付属マップの情報を歩いて確かめる

実際に NY の街を歩き、地図に載っている情報に誤りはないか、例えば新しい店がオープンしていないか、あるいは移転、閉店などしていないか等、修正すべき情報を探しました。一軒一軒チェックしていくので根気のいる作業でしたが、駅への行き方を町の人に聞いたり、タクシーや地下鉄に乗ったり英語を使用したりする場面が多く、NY の雰囲気を体感することができ、とてもいい経験になりました。NY のお店は入れ替わりが激しく、チェックしただけでも一年間で十数軒も閉店や移転がありました。

2-2 NY 便利帳に記載されている内容に誤りがないかチェックする

NY 便利帳に記載されている、日本食料理店の営業時間、住所、店名などに変更や誤りがないかチェックしました。公式の HP で主に調べましたが、公式 HP を持っていない店も多く、正確な情報を探し出すのに苦労しました。

日本人向けスーパーマーケットについて変更箇所を調べたとき、実際に店に電話をかけて問い合わせたのですが、思うように英語が伝わらず苦労しました。そのときインターン先の企業の方が、「日本人は英語の発音が悪いから伝わらないと思いがちだが、実際は自分に自信がなく声が小さいため伝わらないことが多い」というアドバイスをもらい実践してみたところ、以前より格段に英語

が伝わるようになり嬉しかったです。

2-3 レストランを取材し記事を書く

レストランの取材に同行させていただきました。行く前にレストランについていろいろ調べました。例えばどういう店なのか、そして人気メニューは何なのか等さまざまです。自分たちでも質問できるように英語で考えました。

取材先で社員の方は読者に伝えるためにいろいろな質問をしていました。「この店は何をイメージしているのか?」「こだわりはなにか?」などです。どんな店なのかイメージしやすいようにいろいろと聞いていました。

そのあと今回取材に行ったレストランの感想を FaceBook に投稿しました。実際に食べた食感やにおい、味を表現するのは難しかったです。

2 人が執筆した、レストランの取材記事（出典：Y’s Publishing の Facebook ページ）

３．研修を通して学んだこと

今回は業務を通して外に出させてもらって NY がどのような都市なのかなど、観光では絶対に気付かないようなことをさまざまなことを学ぶことができました。研修していて強く感じたことは、自分の意見や考えがはっきりしていないと、海外の人はもちろんのことながら同じ国の人にも自分の考えが伝わらないということです。普段のようになんとなくこんな感じがいいやなどとあいまいな気持ちをやめて積極的に行動していきたいです。（横井）

私は、今回のインターンを通じてたくさんのことを学びました。NY の町を歩いたり、日本語が通じない相手に電話を掛けたり、取材に行ったりすることで自ら考えて行動する主体性が身に付きました。今後、今までのような具体的な目標を持たず、すぐに行動に移せないという短所を見直したいと思います。そして今回の経験を活かし、待ちの姿勢ではなく自分からアクションを起こし、思っていることを相手に発信できるようにしていきたいです。

参考文献

『ニューヨーク便利帳 vol.23』Y’s Publishing, 2015.

参考 URL

Y’s Publishing Face Book：

https://www.facebook.com/pages/%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%83%A8%E3%83%BC%E3%82%AF%E4%BE%BF%E5%88%A9%E5%B8%B3Ys-Publishing-Co-Inc/311488125562125

Abstract

We worked at Y’s publishing. We were mainly engaged in editing the NY map. We wrote articles on Face Book page about the restaurants that we had covered. Thank you, stuff of the company.

研修の記録
—YT Resolution Services, LLC—

中島明穂（Akiho NAKASHIMA）
竹中将人（Masato TAKENAKA）
中村暢仁（Nobuhito NAKAMURA）

１．企業概要

まず私たちが 5 日間研修を行った YT Resolution Services, LLC（以下、YT）について説明します。YT の主な業務内容はコンサルティング及びデザイン、設計です。例えば、店舗を開設したいという顧客の依頼を受けて、YT はまず顧客の要望に沿った候補物件を不動産業者から紹介してもらい、その物件の調査と評価を行い、賃貸契約の手続き、設計を経て施工し、最終的に顧客へ引き渡します。

YT の業務を理解する上で重要なのは、顧客（テナント）が賃貸契約書の複雑な内容を完全に理解するのは難しいということです。まして顧客が日本人であれば尚更のことです。よって商業目的の貸借契約はその難解さ故、個人では行わず弁護士を雇うケースがほとんどです。しかし弁護士でも賃貸契約に対する細かな専門知識があるとは言い切れません。そこで専門知識を有する YT が顧客と弁護士の間に入り、顧客の要望に沿った契約になるようアドバイスを行います。

２．研修内容

１日目

午前は高崎社長から業務内容を説明していただき、私たちが法学部の生徒ということもあって法史学について（内容は後述）学び、午後からは英語で書かれたリース契約書の和訳作業を行い、業務時間の終わりに 1 日目の業務に関するエッセイを英語と日本語で執筆し､1 日目が終了しました。

２日目

午前は前日のエッセイの添削と前日に引き続き高崎社長から法史学の講義を受け、午後からは私たち 3 人が 1 人 1 枚小切手を持ち銀行での入金作業を社員の方の監督の下行いました。その後、機材の発注書を作成しエッセイを執筆し業務を終了しました。

オフィス前にて

３日目

午前は例のごとくエッセイの添削をしていただき、終了後に建設現場の見学に行くよう指示をいただきま

した。その際知らされたのは現場の住所のみでしたので、私たちだけで現場までたどり着かなければなりませんでした。通行人に道を尋ね、右往左往した結果 GPS を活用し建設現場に到着した私たちは、そこが大戸屋の店舗になると知りました。主な工事内容は内装工事であり、現場はまだ配管や配線などを行っており店舗としての体裁は整えられていませんでした。作業員はアジア系の労働者が大半を占め、YT はその監督を行っていました。午後からはニューヨーク公共図書館のオーディオツアーに参加し、図書館内を巡り、帰社しエッセイを執筆し業務を終了しました。

４日目

午前はレオンさんと共に前日よりだいぶ作業の進んだ工事現場を見学しました。ほぼオフィスとして見て取れ、あとは仕上げのみという状況でした。私たちは午後まで窓拭きや、掃除機掛け、荷物運びなどを行い、終了後帰社しエッセイを執筆し、業務を終了しました。

５日目

午前はエリス島に 3 人のみで向かいエリス島について学んでくるように、という指示を受けました。10 時頃、まず私たちはグランドセントラル駅に向かい、メトロカードを購入したのち地下鉄を利用しボウリング・グリーン公園を目指しました。そして到着後フェリーのチケットを購入しリバティ島、エリス島の順で見学しました。この行程にはかなりの時間を要し、帰社する頃には時計は 16 時を廻っていました。その後私たちは 5 日間の研修のまとめをプレゼンテーションし、高崎社長をはじめとする社員の方々からご意見をいただき全ての業務を終了しました。

３．高崎社長から受けた法史学のレクチャー

私たちは研修の 1 日目に高崎社長より法史学のレクチャーを受けました。また研修後のビジネス交流会でも「これからの日本、これからの日本人 −国際化の中で求められる資質−」という講演を聞きました。私たちにはとても難しかったですがまとめてみます。

> 日本と諸外国の若者の意識を比べると、日本の若者は自信がなく、親を尊敬せず、社会参画の意欲が低い傾向がある。そうなってしまった原因は、戦後に国家観や歴史観が失われたことにあり、日本国憲法にそれがよく表れている。つまり憲法の前文には、日本の過去は反省すべき、否定すべきものに過ぎないという思想が読み取れる。
>
> そこで改めて国家とは何かと考えてみると、それは領土、国民、主権の三要素を持ち、歴史的に連続する共同体である。日本の再生に向けて求められるのはこうした国家意識であり、心根としての保守意識である。真の国際人を目指すために、愛国心をもち、日本の文化伝統を維持継承する必要がある。日本人は日本人らしく思い、考え、行動してこそ、世界のなかで理解される。

私たちはこれまでこのように考えたことがほとんどありませんでしたので、お話を聞きながらただ圧倒されるばかりでした。しかし帰国後、日本の国会で安全保障関連法案の審議が始まり、憲法改正や憲法の解釈変更の是非について議論されているのを聞くと、高崎社長のお話を思い出します。こうした議論についての、ひとつの明確な立場に身近に接することができたことはとても貴重な経験でした。

４．感想

初めて海外に行き貴重な経験が出来たと思います。言葉が通じないのはもちろんの事、文化も考え方も全く違い世界観が広がり、日本がとても小さく感じました。そして観光だけでは分からなかった事がこの企業研修で経験できました。5 日間という短い間でしたが内容がとても濃く学んだ事もたくさんあり、自分自身少しは成長できたかなと感じました。

企業研修では、工事現場を見学し、普段経験出来ないことを経験させてもらい、とても思い出として残っています。言語が違うというだけで苦労もたくさんしました。もっと NY に行く前に英語の勉強をしておけばもう少し楽しめたかなと思いました。

今回の研修で私は、もっと日本語を勉強しなければいけないと痛感しました。毎日スタッフの方に添削してもらいながら、日本語の言い回し、漢字などもっと覚え、きちんとした文章を作れるようにしたいと思いました。NY に来て英語力のなさをとても悔しく感じた事を忘れず、これをバネにして一生懸命勉強したいなと思います。（竹中将人）

英語圏どころかそもそも国外に出たことのない私にとっては何もかもが新しい経験で、NY は映画やドラマの世界でしかなかったので、まさに驚きの連続でした。NY は私に様々なものをも見せてくれました。その中で観光では体験できないこと、つまり企業研修を通じて体験したことは他に比べより一層深く私の中に刻み込まれました。

実際の契約書を読み、段階を踏んだ現場の見学を行い、設定した目的地に自分たちだけで到達する。日本ではさほど難しくないことですが、言語が異なるというだけで難易度は格段に上昇しました。携帯端末さえもコミュニケーションを円滑にする抜本的解決策になっていたとはとても言える状況ではなく、想像を遥かに超える苦労を感じました。眼前に広がる問題のうち最も大きな問題は「気後れ」であると感じました。はじめは言語が問題だと考えていました。仕事や生活をする上で言語が通じないことは確かに不安要素ですが、生きていけないというほどではないと感じ、言語は目的ではなく手段であると気づかされました。使用者の意思を介さずに手段が一人歩きすることなどありはしないので使うという意思が大切であり、言語に関しては意欲と少しの勇気で大きな成長が望めると感じました。

今回の研修で私は踏み出すことの重要さを痛感しました。得意でないことに対し悲観的になることなく、前向きに取り組むことで少しずつでも前に進め、自らの目標に近づけるのだと、そう考えられるようになりました。大海を知ったからこそ見える井戸の中の世界もあると思います。私にはまだ往く先の展望はイメージできていません。ですが前へ進む方法を見つけたので焦燥感に駆られることなく気長に考えていきたいと思います。（中島明穂）

私にとってニューヨークでの体験はとても貴重で忘れられないものになると思います。全く準備をせずに行ったために、準備がどれだけ大事かわかりました。英語を使って買い物をすることはおろか道を聞くことさえも思うようにいかず、日本で最低限の準備をしてくればもっと楽しいものにできたのにと反省しました。

企業研修では毎日エッセイを書き、それを添削してもらいましたが、当初は日本語の文章の構成がうまくできず、誤字脱字も多く、文字数も少なく最低限の出来事しか書けていませんでした。それが最終日になる頃には、欠点が完全ではありませんが克服できたように思います。毎日のエッセ

イ添削のおかげであると感じました。

もう一点、企業研修では、何事もプラスにポジティブにとらえることがハッピーになる近道であるということがわかりました。自信過剰という言葉は、自信が満ち溢れていて過信しているという悪い意味であると思っていましたが、自信はあるに越したことはないということが、研修を通して一番学んだことでした。（中村暢仁）

Abstract

YT Resolution Services, LLC conducted the five days training course run that we attended. YT's business portfolio is largely focused on consultation and design services.

Day 1. The CEO, Mr. Takasaki, gave an explanation of the business portfolio and we learnt about the study of legal history. During the afternoon, we practiced translating Lease Contracts that were written in English into Japanese, and we were made to write an essay.

Day 2. We received corrections on the essays that we wrote the previous day and listened to a continuation of the presentation by Mr. Takasaki. We were made to each practice depositing checks at the bank.

Day 3. We again received corrections on our essays, and were then directed to a head to a construction site for an excursion. We attended an audio tour of the New York Public Library.

Day 4. Together with Leon, we went to look at a construction site again. We assisted with tasks such as window cleaning, vacuuming and carrying boxes.

Day 5. We were directed to go as a group of three to Ellis Island and learn about it. This journey took a fair amount of time. After arriving back, we gave a presentation summing up our five days.

後日談

重松歩月（Hozuki SHIGEMATSU）

慰労会（3 月 20 日）

帰国から一週間後の 3 月 20 日。新 3 年生のオリエンテーションの後、遠藤賢治法学部長がスタディツアーの慰労会を催してくださいました。

慰労会には、遠藤先生をはじめ中村昌美先生や萩野貴史先生もお越しくださり、私たちスタディツアー参加者は企業研修での様々な出来事をはじめ現地での経験や学んだことなどを報告しました。参加者一人ずつ 2 週間の感想を述べ、法学部の諸先生方から労いの言葉を賜りました。

留学 Radio に出演！（5 月 28 日）

5 月 28 日。国際センター隣にあるインターナショナル・ラウンジ（通称：i-Lounge）の「i-Lounge 留学 Radio」に、スタディツアーに参加した重松歩月と柳原康次の 2 人がゲストとして出演し、スタディツアーの目的や主な概要・現地での企業研修についてなど、約 15 分間インタビュアーによるインタビュー形式で語ってきました。

タイトルは「異国のお仕事体験談」。お昼休み中に収録が行われ、とくに打ち合わせすることもなく、泣いても、笑っても、本番一発勝負でしたが、インタビュアーの方々にしっかりと「ことばのキャッチボール」していただいたので、ハプニングもなく無事終わりました。

３．テーマ報告

躍動・感動・はじける笑顔！
～世界の中心ニューヨークで世界をENJOY！～

重松　歩月（HOZUKI SHIGEMATSU）
横井　達哉（TATSUYA YOKOI）
寺澤　将成（MASANARI TERASAWA）

1．豊かで調和のとれたかおり高い文化の都市New York

NY スタディツアーでは 5 日間の企業研修をはじめニューヨークで活躍している日本人の方の講演会やワシントン観光などさまざまな企画がありましたが、その中でもスタディツアーの拠点であるニューヨークはわたしたちをはじめツアー参加者の多くが最も印象に残った場所です。

スタディツアー9 日目に宮坂先生が主催したニューヨークにあるユダヤ教の礼拝所とキリスト教の教会を見学することで、ニューヨークにおけるユダヤ教徒とキリスト教徒の実情を学ぶプチツアーに参加しました。ユダヤ教の礼拝所では生れて初めてユダヤ教の礼拝に参加し、大学のチャペルで行われている礼拝よりも荘厳さを感じました。礼拝とは本来どのような雰囲気でどのように臨むべきかを学ぶことができました。キリスト教の教会でも礼拝に参加しました。ユダヤ教の礼拝とは違い賛美歌をみんなで歌うことが多く、また椅子の下に跪くために設けられた台があるなど大学のチャペルとの違いを理解することができました。宮坂先生が主催したこのツアーに参加し、キリスト教概説やキリスト教学で学んだことを改めて理解することもでき、キリスト教主義大学である名古屋学院大学の学生としての誇りを感じました。

スタディツアー10 日目に参加者全員でニューヨーク市内観光を行いました。ニューヨーク市内観光ではバスで①自由の女神⇒②ウォール・ストリート⇒③9.11 メモリアル⇒④国際連合本部の順に見学をしました。2001 年 9 月 11 日のアメリカ同時多発テロの影響で見学したすべての施設で厳しいセキュリティ・チェックがあり見学できる場所も限られているのではないかと思いましたが、国連総会や安全保障理事会など世界的に重要な場所にも足を運ぶことができ、さまざまな重要施設を見学することができました。（重松歩月）

2. 国際連合本部（United Nations Headquarters）

1943 年 10 月、アメリカ・ソ連・中国（中華民国）・イギリスはモスクワ宣言を採択し、第二次世界大戦後の国際秩序の安定を目指して国際連盟に代わる新たな国際機構を創設することを決めた。1944 年 8 月から 10 月にかけてダンバートン・オークス会議を開催し国際連合憲章の草案作成と新たな国際機構の具体的な内容の骨格を固め、1945 年 2 月のヤルタ会談において安全保障理事会の拒否権方式による決定方法などを決め、1945 年 4 月から 6 月にかけて開催されたサンフランシスコ会議において国際連合憲章の草案を審議し、1945 年 6 月 26 日の国際連合憲章への署名を経て 1945 年 10 月 24 日に国際連合憲章を発効し、51 加盟国から成るアメリカのニューヨークを本部とした国際連合が正式に発足した。国際連合憲章は国際連合発足当初、アメリカをはじめとする連合国の国際機関としての性格を有していたが、193 の国と地域が加盟している現在は世界の殆どの国家が参加する普遍的国際機構となり現代の国際社会は国際連合なしでは成り立たない状況になっている。

国際連合は国際の平和および安全を維持することを目的とし、また人民の同権と自決の原則の尊重に基づく国家間の友好関係を発展させ、経済・社会・文化・人道的な性質を有する国際問題の解決と人権及び基本的自由の尊重を助長奨励するための国際協力を達成することも目的としている。国際連合は①国際の平和および安全の維持②自決の原則による諸国間の友好関係の発展③国際問題の解決④基本的自由の尊重を助長奨励するための国際協力を達成させる為、その目的の実現という任務を一国一票制の表決手続を行うことですべての加盟国が遂行している。

国際連合と聞くと「すべての国と地域が一堂に会して様々な問題を解決する場所」「UNICEF などをはじめとする国際機関を通じて世界の貧しい人々を救うために支援する組織」「UNESCO があり世界遺産を決める場所」などといったイメージを思い浮かべる人が多いかもしれない。実際に生で目の当たりにしてそういったイメージは正しかった。一方、視点を少し変えてみると国連本部ビルは事務局であり会議などはその横の建物でやっているなどといった、今まで思っていたイメージとはかなり異なる部分もあった。この様に、思っていたイメージと実際とではかなり違う為、実際に自らの目で観ることや自身の身体で知り感じるということが重要であるということを、ニューヨーク市内観光をはじめスタディツアー全体を通して理解することができた。（重松歩月）

3．アメリカ自然史博物館（American Museum of Natural History）

映画『ナイトミュージアム』のもとになった博物館です。映画とほとんど変わりません。展示物の内容は動物のはく製、各地域の人々の生活、深海生物、宇宙、天気など地球の様々な自然が展示されていました。ルーズベルト大統領の銅像と写真を撮ることができます。動物のはく製は風景と一緒に展示されていて実際に動物が住んでいる環境とおなじように見えて今にも動き出しそうな感じでした。展示物の内容が濃いのでさらっと見るだけでも半日はかかり、何回訪れてもいろいろな発見があって楽しい場所だと思いました。

【実際に行ってみたらこんなところだった！】

世界の国々が集まったような場所であり、国が同じであってもさまざまな目標を持った人たちが集まっていました。

NY に行く前にアメリカは「犯罪大国」「銃社会」といった悪いイメージで危ない国だと思っていましたが実際は優しい人たちがたくさんいました。エレベーターでは What's your floor? や転びそうになっている人たちがいると Are you OK? など声をかけてくれる人たちがたくさんいました。ニュースやネットの意見ばかりだけではなく実際に見てみないととわからない部分はたくさんあります。

海外では自分の意見や考えがはっきりしていたらカタコトの英語でも通じることにとても驚きました。日本語のあいまいさに慣れてはいけないなとおもいました。　（横井達哉）

4．自由の女神（The Statue of Liberty）

自由の女神はアメリカの象徴です。イギリスから独立した 100 周年記念に、フランスから友好の証しとして贈られたものです。右手には純金で形づくられたたいまつ、左手に持っているのはアメリカ合衆国の独立記念日とフランス革命が勃発した日が刻印された銘板です。

足元には引きちぎられた鎖がありこれは、あらゆる弾圧、抑圧からの解放、すべての人類が自由で平等であることを象徴しています。王冠には 7 つの角があり、7 つの大陸と 7 つの海を表しています。台座 2 階には自由の女神についての博物館があります。現地では自由の女神についての日本語

音声ガイドもレンタルできます。

観光客が多いためフェリーの運航本数が多くありました。自由の女神を実際に生でみてみると、その迫力に圧倒されました。また、マンハッタン島から自由の女神が立つリバティ島までを結ぶ船の上からのニューヨークの景色はとても綺麗でした。様々な国から訪れる観光地であるため、様々な反応、感動の仕方がありとても面白かったです。（寺澤将成）

5. 総括～希望に満ち活気あふれる世界都市 New York～

ニューヨークには自由の女神をはじめタイムズスクエアやブロードウェイなどといった世界的にも名をはせるところがたくさんあります。特にタイムズスクエアはわたしたちの宿泊したホテル・ペンシルバニアから徒歩で行くことができる圏内にあり、スタディツアーに参加した法学部生にとっては「俺たち・わたしたちの庭」的な場所でした。そんなところで 2 週間「ニューヨーカー」になれたことに私たちは誇りに思います。

今回初めての法学部 NY スタディツアーと言う大企画に参画下さった法学部の教員は無論、名古屋学院大学の職員の方々をはじめ関係各位に対し感謝の意を表します。ありがとうございました。

（重松歩月）

ニューヨークのミュージカル

阿部 翔太郎（Shoutaro ABE）
大山 リエ（Rie OOYAMA）
河合 真子（Mako KAWAI）
新宮 優（Yu SHINMIYA）
中川 明日香（Asuka NAKAGAWA）

１．ミュージカルについて

1-1 ミュージカルの誕生

音楽・演劇・ダンスを合体させてできたのが、ミュージカルと言われています。なぜ「ミュージカル」と呼ばれるようになったかというと「ミュージックプレイ」という言葉からきているそうです。

ミュージカルの誕生はアメリカです。しかし、もとになったのはヨーロッパのオペラやバレエと言われています。昔、貴族達の楽しみだったというオペラを貴族だけではなく様々な人々にも楽しめるようにとコメディ化し、庶民にも馴染みやすいようわかりやすく作られたのが「オペレッタ」というもので、それがアメリカにわたり、19 世紀当時アメリカで行われていたダンスや歌、マジックで構成されたショーと組み合わされ、進化、発展したのが今のミュージカルだといわれています。

1-2 ブロードウェイとは

ブロードウェイとは、ニューヨーク、マンハッタンにある通りの名前ですが、その通りの周辺に、ミュージカルの劇場がたくさんあることから、今ではミュージカル＝ブロードウェイというように、ミュージカルの代名詞となっています。ブロードウェイで特に劇場が多いのはタイムズスクエア周辺です。ちなみに、ブロードウェイと呼ばれるのは主に 500 席以上の大劇場のことを指しており、現在では約 40 のミュージカルが上演されています。その中にはキャッツやライオンキングなど日本でも上演されている作品もあります。

1-3 オフブロードウェイとは

オフブロードウェイとは、大きな劇場のブロードウェイに対し、499 席以下の小さな劇場のことを言います。さらにもっと小さな劇場で 100 席以下のものはオフオフブロードウェイと呼ばれています。有名な作品でいえば「ブルーマン」や「ストンプ」などがあります。

２．ライオンキング

2-1 あらすじ

アフリカの大地。動物の王国プライドランドに君臨するのは、百獣の王ライオンの国王ムファサ。そのムファサの息子の誕生を今まさに祝福されんとしていた。そうして、王子として生を受けたのがシンバ。幼いシンバは幼馴染の女の子ナラとやんちゃ盛りである。そんなシンバにムファサの弟

スカーが近づく。スカーは兄から王国を乗っ取ろうと画策していた。スカーはシンバを騙し、危険極まりない地区である「象の墓場」に誘い込む。シンバの身を案じたムファサは、シンバを救うため、像の墓場へ急行する。しかし、スカーの陰謀で命を落としてしまうムファサ。ムファサの死の真相を知らないシンバは、スカーに言われるがままに、ムファサの死の責任をとるため、王国を去ってしまう。

傷心シンバであったが、新しい土地で新しい仲間たちと出会い、明るい青年として成長していく。そんな折、幼馴染のナラと偶然出会ったシンバは、スカーがハイエナと手を組んで王国を我が物として悪政を行っていること、そのために食物さえままならない状況であることを知る。ナラの説得により、スカーを追い出し、王国復興のために、シンバが立ち上がる。

（http://tick.skr.jp/d_lionking.html　より引用）

2-2 見どころ

１　音楽

音楽がとても立体的で、私は何度もクラッシックコンサートに行ったことがあるのですがその中でも群を抜いて最高の音でした。一つ一つの楽器の音が繊細かつ大胆に交じり合い、ミュージカルを盛り上げていました。特にエンディングの音楽は壮大で、ただ音量が大きいだけで盛り上がりを表現するというようなものではなく、フィナーレへ向けて重厚な胸に響く豪華な音楽で、感動のラストになりました。衣装やセットもとても工夫されていて、幕が開いた瞬間、物語に引き込まれました。細部まで作りこまれた衣装とレベルの高い演者の演技でシマウマやキリン、ライオンなどの動物から、草木までも上手に表現されていました。

２　場内の雰囲気

劇場内は家族連れ、小さな子供連れが目立ちました。小さな子供でも分かる大きな演技、丁寧な言葉の言い回しで老若男女のみならず英語が苦手な方も楽しめる素敵なミュージカルです。そして演者が観客の手が届くほど近くに来てパフォーマンスをしていたのが、とても印象に残っています。観客の真上を鳥が飛んだり、間近で独特な民族楽器の演奏が聴けたりして、大感動でした！

３．オペラ座の怪人

3-1 あらすじ

1905 年、パリ・オペラ座の舞台上。オペラハウスの所有物がオークションにかけられている。車椅子の老人はその中の一つ、オルゴールに手を止める。

さかのぼること半世紀、オペラ座の舞台では、オペラ『ハンニバル』のリハーサル中。しかし華麗な舞台の外では"オペラ座の怪人"の仕業とされる謎めいた事件が続発していた。策を講じない支

配人に腹を立てたプリマドンナのカルロッタは、オペラに出演しないと言い出す。急遽代役に選ばれたのはコーラスガールのクリスティーヌ・ダーエ。亡き父の贈り物"音楽の天使"にレッスンを受けたという素晴らしい歌声を披露し、舞台は大成功をおさめる。

そんなクリスティーヌをひときわ熱いまなざしで見つめる青年がいた。ラウル・シャニュイ子爵は、美しく成長した幼なじみのクリスティーヌの楽屋を訪れる。その夜、クリスティーヌは楽屋から忽然と姿を消した。クリスティーヌの前に"音楽の天使"が現れ、オペラ座の地下に広がる神秘的な湖を進み、彼の隠れ家へと連れ去ったのだった。"音楽の天使"を名乗って夜ごと彼女に歌を教えていたのは、愛するクリスティーヌをプリマドンナに仕立て上げ、自分の音楽を歌わせたいと願う"オペラ座の怪人"だったのだ。

（http://www.shiki.jp/applause/operaza/about/story.html より引用、4 月 8 日閲覧）

3-2 見どころ

1. 豪華なステージセット：ステージセットの豪華さには感激しました。一番印象的なセットは、何といってもシャンデリアです。シャンデリアが落ちてくるシーンも迫力があり、まるでアトラクションに乗っているような気分が味わえます。
2. 大迫力の音楽と歌声：ミュージカルではステージ下にあるオーケストラピットと言われるところで演奏しています。そのため、大迫力の生演奏を楽しむことができます。また、キャストの皆さんの素晴らしい歌声にも聞き入ってしまいます。美しい音楽と歌声は観る者にエネルギーを与えてくれます。
3. 揺れ動く恋模様：オペラ座の怪人と呼ばれているファントムと、そのファントムの歌の指導でオペラ座の舞台で活躍できるようになったクリスティーヌ、そしてクリスティーヌの幼馴染であるラウル。この 3 人が巻き起こす恋の三角関係と最後にクリスティーヌがした決断の真意に、ミュージカルを見ていた人たちは涙を流すしかありません。

メトロポリタン美術館を巡る

林 紀樹（Noriki HAYASHI）

1. メトロポリタン美術館とは

アメリカには巨大な博物館や美術館がたくさんありますが、なかでもメトロポリタン美術館は、ニューヨークに存在する世界最大級の美術館です。1870 年に開館し、収蔵作品は 300 万点を越えます。その特徴は巨大さだけでなく、コレクショの幅がとても広いことにもあります。洋の東西を問わず、絵画・彫刻・写真・工芸品など実に様々な作品が展示されており、一日で全館を回るのは難しいと思います。

私はその巨大さと有名さに惹かれ、メトロポリタン美術館について書くことにしました。

正面入口

2. 実際に訪れてみて

メトロポリタン美術館は、マンハッタンの中心街である 5 番街に位置し、宿泊していたホテルから地下鉄とバスに乗って向かいました。建物は想像していたよりもさらに大きかったです。中へ入ってみるといろいろな国の人がたくさん訪れており、にぎわっていました。

ここの美術館の面白いところは、まず入館料です。普通の美術館は入館料が決まっていますが、メトロポリタン美術館は目安があるだけで入館料が決まっていません。今回は日本の学生ということで、無料で入館することができました。お金がない学生にとってはありがたいと感じました。

展示室は 1〜3 階までありますが、時間の制約もあり今回は 2 階を中心に回りました。まず目を引いたのが階段を上ってすぐのヨーロッパ絵画（1250〜1800 年）の展示室で、フェルメールの作品などが展示して

Johannes Vermeer "Portrait of a Young Woman"
1666〜67（フェルメール『少女』）

Isamu Noguchi, “Water Stone” 1986
（イサム・ノグチ『水石』）

ありました。前ページの絵は『少女』という作品で、有名な『真珠の耳飾りの少女』と構図や雰囲気が似ており、比較されることの多い作品です。以外と小さめの絵でした。なかなか観られるものではないと思うのでとても得した気分になりました。美大生が絵画を模写していたり、年配の方がゆったり鑑賞を楽しんでいたり、芸術作品をさまざまに楽しんでいると感じました。

日本の作品が展示されている部屋もありました。ヨーロッパ絵画と比べると人は少なかったですが、真剣に見入っている人が多い印象でした。趣のある作品が多いと感じました。上の作品は、日系アメリカ人の著名な彫刻家イサム・ノグチの『水石』です。上部からわずかに水が流れでていました。日本でつくられた作品であり、石も日本のものだとのことで、禅寺の庭を思わせる静かな雰囲気でした。アメリカ人の日本に対するイメージとはこのようなものなのかもしれないと思いました。

ほかにも様々なところを回りましたが、やはり最大級の美術館だけあり一日ですべてを観ることは不可能だと感じました。館内の Met ストアでは美術作品も販売しています。

参考 URL

メトロポリタン美術館　http://www.metmuseum.org/

ワシントン D.C.観光

小崎 敬太（Keita KOZAKI）
柳原 康次（Koji YANAGIHARA）
山村 峻秀（Takahide YAMAMURA）

1. ワシントン D.C.到着～アメリカ合衆国議会

私たちは企業研修が終わった次の日にワシントン D.C.観光に行きました。

朝 5:30 にホテルのロビーに集合して最寄りのペンシルヴァニア駅からアムトラック（アメリカの長距離鉄道）に揺られること 3 時間でワシントン D.C.に着くことができました。

到着したのはとても大きな駅でした。上の写真がユニオン駅と呼ばれるワシントン D.C.の名所の一つです。

皆さんワシントン D.C.の名前の由来をご存知ですか？ワシントン D.C.の「D.C.」は「The District of Columbia」つまり「コロンビア特別区」の略称です。「ワシントン」は、もちろん建国の

連邦議会前にて

父ジョージ・ワシントンに由来し、「コロンビア」はアメリカ大陸の発見者クリストファー・コロンブスにちなみます。二人の人物の名前を冠した、世界でも珍しい都市の名前です。

前ページの写真はアメリカ合衆国議会（連邦議会）の建物です。私たちが行ったときは改修工事をしていましたので、しっかりとは見ることができませんでした。この場所でオバマ大統領をはじめ代々の大統領が演説を行っています。

2. リンカーン記念館

連邦議会の建物を見た後、私たちはリンカーン記念館に行きました。この建物の柱の数は全部で 36 柱あります。この柱の数はリンカーンが亡くなった時点のアメリカ合衆国加盟州の数を示しているそうです。そして、外壁には、1922 年にリンカーン記念館が完成した時に存在していた 48 州の名前が彫ってあるそうです。

さらに、記念館の反対側にはワシントン記念塔を見ることができます。ここから見る景色は人気があります。中でも桜が咲いているシーズンはおすすめだそうです。

この記念塔は大理石、花崗岩、砂岩など国産の石約 36,000 個で出来ています。このデザインは 1840 年代アメリカで最も卓越した建築家の一人であったロバート・ミルズによるものです。着工工事がされたのは 1848 年ですが、南北戦争の介在や資金不足が重なり、一時建設作業は中断され、36 年後の 1884 年に建立されました。写真を見るとわかりますが、ワシントン記念碑の中腹部分から石の色が変わっているのがわかります。これは一時中断前と一時中断後の境目であることを示しています。

リンカーン記念館

ワシントン記念塔

リンカーン像

リンカーン記念館からワシントン記念塔を臨む

ホワイトハウス前にて

３．ホワイトハウスと国立アメリカ歴史博物館

リンカーン記念館の後、ホワイトハウスに行きました。ここは柵があり、あまり近づくことができませんでした。そして、ホワイトハウスの上には、巡回中の警備の人たちの姿を見ることができました。やはり大統領がいる所ということもあり警備が厳重だと思いました。

国立アメリカ歴史博物館

最後にスミソニアン博物館に含まれる国立アメリカ歴史博物館に行きました。ここの地下 1 階で少し遅めの昼食を食べました。そのあとは自由行動で、集合時間まで中を見て周りました。この博物館は、産業、技術、そして、戦争のことを展示していました。時間が少なく全てを見ることができませんでしたが、それでも戦争の悲惨さはよく伝わりました。

例えば、次ページの写真のように第二次世界大戦当時の旧日本軍の蛮行が載せられていました。

今まで、学校の資料では見る機会がなかったので、改めて衝撃を受けました。

この他にも原爆のことも詳しく書かれていましたが、こちらは血や死を感じさせない構成になっていました。ベトナム戦争はアメリカが行った枯葉剤による人的被害の写真はなく、アメリカによる非人間的行為は絵でしか示されていませんでした。

このことから、自分たちの行いより、他国の行いが悪い印象を持たれるように書かれることがわかりました。それが顕著に出ているのがベトナム戦争でした。私たちはこういった情報操作で自分たちの罪悪感を和らげていると感じました。これは日本にも言えることだと思います。なぜなら、教科書にはアメリカ人が悪く書かれているからです。つまり、両者とも真実を述べていますが自分たちに都合のいいことを書いて、都合の悪いことは他国を悪くするように書かれていました。私たちは過去の過ちはしっかり描くべきだと思いました。

４．総括

ワシントン D.C.に到着した駅には、それなりに人はいましたが、いざ外に出てみるとニューヨークと比べて、人通りが少なく感じました。また、街並みを比べてみても高い建物も中にはありましたが、全体的に低く感じました。しかしその反面、清潔感があり、交通量が少ないので、静かで過ごしやすく感じました。また、運転手の人もそうでしたが、ここの人はマイペースな人が多いそうです。

観光としては良かったと思いましたが、ワシントン D.C.にいた時間が電車の往復時間より少なくなってしまったので、その点に少し不満が残った観光となりました。一泊してでも良いので、リンカーン記念館から見るワシントン記念塔のきれいな夜景を個人的には見たかったです。

参考 URL

国立アメリカ歴史博物館　http://www.h6.dion.ne.jp/~unisan/data/euromuse/usnmah/nmah.html

アメリカ軍事展示物巡り

伊藤 翼（Tsubasa ITO）
田中 聖也（Seiya TANAKA）

1. はじめに

今回の NY スタディツアーで私たちはニューヨークとワシントンの博物館について調べることにしていました。ところが実際に行ってみるとそれぞれの博物館に展示されているものがものすごく多くて館内も広く、回りきれない場所が多々ありました。私たちは見学していて戦争についての資料や兵器が日本ではあまり見られないことから物珍しさを感じ、これをテーマに報告をまとめることに決めました。

2. 国立アメリカ歴史博物館 ―National Museum of American History―

ワシントン D.C.のスミソニアン博物館に含まれているこの博物館には、3 階に”The price of freedom: Americans at War”というアメリカの軍事と戦争の歴史をとりあげた展示室があり、独立戦争からアフガニスタン戦争まで時系列に沿って展示されていました。

国立アメリカ歴史博物館

室内には戦争時に使われた武器やその写真はもちろん、人形や模型でその当時の状況を再現している大きな展示物もありました。個人的には天井から吊り下げられていた陸軍の車や、陸軍が負傷兵を助け出すシーンの展示に用いられていた実物のヘリコプターの、スケールの大きさとリアリティーに感動しました。展示室は時系列順に展示されているのでアメリカの歴史の背景がわかりやすく、展示の仕方も日本とは違っており、興味を持ちながら見て回れる空間だと感じました。

戦争についての展示

展示物を見て回って思ったのは、戦争で傷を負った兵士や一般市民の写真などアメリカが被った被害についての展示はあるが、戦争に関して悪いイメージを感じさせるものはないということでした。特にベトナム戦争の展示コーナーはとても敗北したと感じさせるものではなく、第二次世界大戦の原子爆弾投下の資料コーナーも情報や写真が少ないと感じました。

3. イントレピッド海上航空宇宙博物館 ―Intrepid Sea, Air & Space Museum―

ニューヨークにあるこの博物館は、空母イントレピッドの館内を博物館に改装したものであり、展示スペースは、HANGAR DECK、FLIGHT DECK、GALLERY DECK、THIRD DECK に分かれ、艦上と館内に展示されています。司令塔の中に入ると中には艦長の部屋や操縦室があり、操縦室には係りの方がいて説明を受けることができました。隣の 86 番式桟橋には現在、グレイバック級潜水艦グロウラーと超音速旅客機コンコルドが展示されています。

3-1 空母イントレピット

航空母艦イントレピッド（USS Essex, CV-11）は、全長 820ft（約 250 メートル）、全幅 147ft 6 in（約 45 メートル）、乗員 2600 名、搭乗機 90~100 機の性能を誇り、第二次世界大戦中の 1943 年 4 月 26 日に進水しました。

1944 年 2 月 17 日に日本軍拠点のトラック島の攻撃に参加したのが初陣となり、1944 年 10 月にレイテ海戦、1945 年に硫黄島上陸作戦の支援、沖縄戦、日本本土空襲作戦に参加し、沖縄水上特攻作戦に戦艦大和を含む日本軍第二艦隊に対する空襲作戦にも参加しており、大和の轟沈にも貢献しています。その間、神風特攻隊によって攻撃を受け損傷しましたが、轟沈することなく終戦を迎えています。見学の際に係りの方が「Japanese attack!! Japanese attack!!」と説明してくれました。複雑な気持ちでした。

1965 年にはジェイミ計画の支援で大西洋に着水した宇宙船ジェイミ 3 号を回収しており、1966 年にはベトナム戦争にも参加しました。

3-2 HANGER DECK ―格納庫デッキ―

HANGAR DECK 内はイントレピットの戦果や当時の軍服、日本人の写真、機体の残部品など、第二次世界大戦の資料が展示されていたほか、戦闘機やヘリコプター、対空ミサイルの模型、対空砲があり、奥には機体のコックピットを再現し席に座ったりできるアトラクションや潜水艦についての展示物がありました。

3-3 FLIGHT DECK ―甲板―

私たちが訪れた日、甲板には約 20 機もの戦闘機とヘリコプターが展示されており、甲板の奥には大きなテントがありその中にスペースシャトル・オービタ 1 号機のエンタープライズが展示されていて、入館料を$６余分に払うと入場することができました。イントレピッド海上航空宇宙博物館は映画「アイ・アム・レジェンド」のロケが行われた場所で、この甲板上でのシーンが有名です。

3-4 SR71

SR-71 はロッキード社が開発しアメリカ空軍が採用した超音速・高高戦略偵察機で、愛称はブラックバードです。高高度で超音速飛行を行うことでミサイル迎撃を回避することを目標に、偵察機 A-12 を改良して開発された機体で、この機体はイントレピットで展示されていた中で一番大きく、とても目立っていました。

3-5 E-1

E-1 はアメリカ海軍が運用していた艦上早期警戒機で、トレーサー(Tracer)の愛称で呼ばれています。アメリカ海軍は第二次世界大戦後半より航空母艦に搭載できる早期警戒機の開発を行っており、1956 年、グラマン社が艦上輸送機 TF-1 にアルミニウム製ドームレーダーを搭載した、E-1 を開発しました。初めてドームレーダーを積んだ艦載機を見て感動しました。

3-6 F-14

F-14 はグラマン社が開発した艦上戦闘機で、愛称であるトムキャットは「雄猫」を意味します。アメリカ海軍の保有する F-4 ファントムⅡの後継機として開発された、可変翼と長射程の AIM-54 フェニックス（長射程空対空ミサイル）の運用能力を特徴とする第四世代ジェット戦闘機で、総計 712 機が製造され、アメリカ海軍以外にもイラン空軍で採用されました。

3-7 AH-1 コブラ

AH-1 コブラはベル・エアクラフト社が開発した世界初の攻撃ヘリコプターで、1967 年～現在まで 1,000 機以上が製造されています。前席に射撃手、後席に操縦士の二名が縦一列に搭乗するコックピットを採用し機首下に機関砲を搭載しており、後に各国で開発され 20mm 機関砲や TOW 対戦車ミサイルなどを主武装とし、ベトナム戦争や湾岸戦争など多くの戦争に投入されました。

3-8 感想

日本には第二次世界大戦についての資料館や博物館、特に軍艦や武器の展示されているところが少ないですが、アメリカは軍艦自体をいくつも博物館にするほど充実しており、戦争の規模の凄さや歴史を実物に触れながら学ぶことができるとても興味深い博物館でした。

そして館内の展示物の説明を見ていて思ったのは、どの展示もあまり戦争を悲観的に捉えたり否定したりしておらず、むしろみていてかっこいいなと感じさせるくらい楽観的に捉えられたものが多かったということでした。

参考 URL

アメリカ国立歴史博物館：http://americanhistory.si.edu/

イントレピッド海上航空宇宙博物館：http://www.intrepidmuseum.org/

４．引率者所感

法学部ＮＹスタディツアー引率を終えて

国際センター 長瀬 賢俊

世界の政治、経済、文化、そして商業やエンターテイメント、ファッションにまで幅広く影響を与えているニューヨーク。広大なニューヨーク州の中のわずか 790 平方キロというごく一部分に、州全体の半数が暮らし、年間約 5,000 万人の観光客が訪れるアメリカを代表する大都市である。昔から海外移民の定着率も高く、白人やヒスパニック、アフリカ系、アジア系等など様々な人種が暮らし、それぞれの文化が混ざり合うのでなく、個々の文化を大切にしながら共存している。少し足を伸ばすとそれぞれの文化を象徴する、異なる表情をみせる場所が点在し、その多様性から地球を凝縮した都市とも言われている。もちろん、世界中から持ち込まれた多種多様な文化が互いに複雑に影響し、新しい文化を生みだし、それが世界を牽引している部分もある。「眠らない街」に、刺激的でエネルギーにあふれた人々がチャンスを求めて集まり、新しい流れを生み出している。この街を訪れ、この街で暮らす人々と接すると、自然と自分も何かに挑戦したくなる想いに駆られる。そんな街の雰囲気が、まさにニューヨークという場所の特徴なのではと考える。

ペンシルバニアステーション前

研修初日
（YT Resolution Services, LLC）

ビジネス交流会の様子

名古屋学院大学では、開学当初より国際教育を教育の柱の 1 つとしており、年間約 300 名の学生を海外に派遣している。海外協定校は 80 校を超え、半年から 1 年の中期・長期留学に加え、昨今では現地で国際理解を深める海外インターンシップやスタディツアー等の研修を行っている。2014 年度より、法学部においてニューヨークでの企業研修プログラムを開始することとなり、その引率を法学部宮坂先生と共に担当した。このプログラムは、ニューヨーク市・マンハッタン内に所在する企業（主に日系企業）での 5 日間の企業研修を中心としており、9 社の様々な業種の企業に学生を受け入れて頂いた。「内向き志向」と表現される、これまで海外文化に触れそれを身近に感じる機会のなかった、比較的おとなしいとされる学生達に、日本から一歩外に出て異文化を経験し、視野を広げ、その後の学修のモチベーションに繋げる事を目的としたプログラムで、その派遣先として、刺激の多いニューヨークは適切な場所だった。実際に訪れるとよく分かるが、この場所では決して内向き志向の人々はおらず、自己主張の強い人々がせめぎ合いながら暮らしている。出会った方々も、一見物腰は穏やかな印象ではあるが、内に強い芯を秘めていると感じた。

この企業研修で私が一番印象的に感じたことは、学生達が企業研修を通じて出会う人々に大いに影響され、その眼の色が日に日に変化していく様子であった。決して英語を得意とする学生達でな

く、職務経験もない学生達が、世界の最前線であるニューヨークの企業でどの程度通用するのか、この企業研修を通じ学生がどれほど経験を積めるのか、成長するのか、心配な面は多々あった。しかしながら、日々の研修報告を通じ、彼ら、彼女らの変化を垣間見る中で、私たちの想像を超えた変化が生じていると強く感じた。それは、5 日間という極端に短い期間の中で、最大限に学生達が経験を積めるようにと、どの企業も創意工夫を凝らし、充実した研修内容を準備して頂いた為で、各企業およびご担当者のご尽力は計り知れない。そして、祖国の若者たちに少しでも海外で挑戦することの厳しさや大切さを感じ、世界で活躍できる人材に育って欲しいという期待や愛情が込められたプログラムだったからこそ、学生たちも真摯に受け止め、成長に繋げることが出来たのではと考える。ここで生まれた小さな芽をどう育てていくのか、今後のフォローアップについては名古屋学院大学の責務であると考える。

研修報告の様子

自由の女神前にて集合写真

アメリカ合衆国議会議事堂

今回このような素晴らしい機会をご提供頂いた、各企業及びご担当者の方々に感謝の意を述べたいと思う。また、初めて実施するプログラムとしてご支援を頂いたウエスト・ウイング・アジアの富松氏にも様々な面でご苦労をおかけした。本プログラムが何事もなく無事に終了することが出来た事は、富松氏の念密なフォロー体制の上に成り立っていたと言っても過言ではない。改めて感謝の意を述べたいと思う。

Thank you so much for providing us with these valuable job opportunities in New York. I hope our students will develop from their experiences. During our 2 week study tour, there were no troubles nor concerns. I really appreciate the great support we received.

Masatoshi Nagase
International Center
Nagoya Gakuin University

総 括

― 編集後記に代えて ―

法学部講師　宮坂 清（Kiyoshi MIYASAKA）

報告書の編集をほぼ終えてこの文章を書いている。いくつか情報を補足しながら総括を行いたい。

1. 出発に向けた準備

2014 年度法学部ニューヨーク・スタディツアーの企画は 2014 年 9 月より本格的に始まり、それから約半年間、大学内外のさまざまな方に助言や協力をいただきながら準備をすすめた。

9 月下旬　参加募集：法学部の学生と父母向けに参加募集。
10 月中旬　申込締切：募集人数を大幅に超える応募があった。
10 月下旬　選考：面接のうえ選考を行い、20 名（全て 2 年生）を選出。
11 月中旬　視察：長瀬賢俊氏とニューヨークにて視察を行い、研修先の企業に挨拶。
11 月下旬　第 1 回オリエンテーション：国際センターより手続き書類の配布と説明。
12 月中旬　第 2 回オリエンテーション：富松氏より、企業研修や現地での行動に関する説明。
1 月下旬　研修先企業の割り振り発表。
1 月中旬　準備サロン：宮坂と学生が個別に面談し、基礎的な信頼関係を築いた。
1 月中旬　第 3 回オリエンテーション：H.I.S.の小川努氏より旅程や現地での行動に関する説明。
2 月上旬　第 1 回準備会：映画鑑賞と中村昌美先生の解説「アメリカの法制度について少々」。
2 月上旬　第２回準備会：渡航の準備、現地での行動に関する注意など。

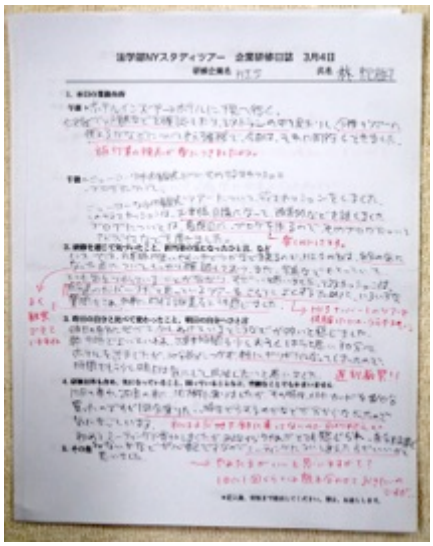
第一に安全に帰国すること、第二に充実した研修にすることを優先して準備をすすめた。法学部として学生を海外に派遣する初めての機会ということもあり、何よりもまず学生を安全に帰さなければならず、また、大学より学生それぞれに多額の補助をいただいたことからも、充実した研修の成果をあげる必要があった。

まず安全に関して、国際センター主催のオリエンテーション 3 回で安全に関する注意を繰り返し喚起し、また私が開いた準備サロンや準備会でも安全や健康に関して念をおした。なお、引率者を含む全員がスマートフォンのアプリケーション LINE の利用者であったため、現地での連絡に補助的に LINE を用いることとし、引率者と学生から成るグループをつくった。自由時間に外出する際の状況把握や就寝前の点呼などに活用でき、安全性の向上に役立った。次に、研修を充実したものにするために、研修先企業の割り振りは、学生に第 1 希望から第 5 希望まであげさせ、できるだけ希望を叶えるかたちで決め、やる気が高まるよう配慮した。英語が心配であるという学生のためには、国際センターでテキストを配布し学習を促したほか、宮坂も学習についての助言や教材の紹介を行い、学生が気後れしないよう努めた。

2. ツアーについての補足

2-1 企業研修後の夕食ミーティング

企業研修期間、毎晩 19 時ころより、ホテル近くのデリ（軽食店）に集まり、夕食を食べながらミーティングを行った。まず、１人ずつレターサイズの用紙を配布し、その日の業務内容、学んだこと、次の日に向けた改善すべき点などについて、日誌を書かせた。日誌は一旦回収し、宮坂が内容を確認し、コメントを記入したうえで、後日、返却した。この日誌は、学生たちが日に日に成長していくさまをつぶさに読みとることができるだけでなく、例えばトラブルの芽を摘むのに役立つなど、利点は大きかった。

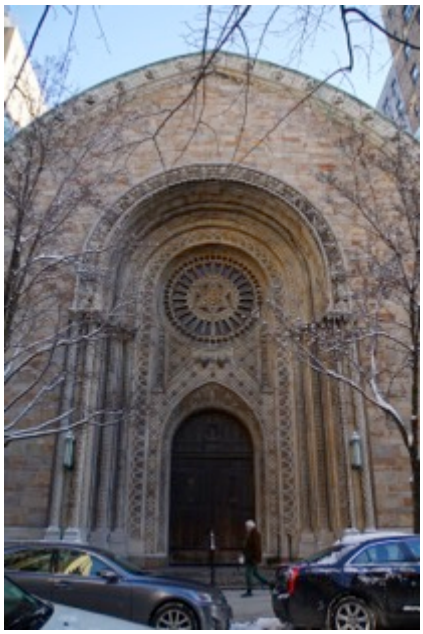


ぎっしり書き込まれた日誌

次に、企業ごとに業務内容や学んだことを発表させ、みなで経験を共有した。研修期間のほとんどが雪や冷たい雨の天候であり、研修を終えて疲労の色が濃い学生が多かったが、それでも一日一度顔を合わせて話をすることは、引率者にとり学生それぞれの状態を把握するのに役立ち、また学生にとっても他の企業で研修している学生の報告を聞くことには意義があるようだった。長瀬氏のほかウエスト・ウイング・アジアの富松氏も毎回参加して学生たちの話を聞き、助言してくださった。

2-2 ユダヤ教シナゴーグとキリスト教教会への引率

3 月 8 日（日）の午前中に、希望者 8 名をユダヤ教とキリスト教の礼拝へ引率した。まず地下鉄で B’nai Jeshurun というユダヤ教シナゴーグを訪れ、毎朝行われている簡素な礼拝に参加し、そこで用いられていた聖典や特殊な衣装について関係者に話を聞いた。次に、宿泊先ホテルの隣にある「アッシジの聖フランチェスコ教会」（Church of St. Francis of Assisi）を訪れて日曜礼拝に出席した。さまざまなや人種・民族の人々が集う大規模かつ壮麗な礼拝で、最後に学生たちも聖体拝領を受けた。いずれもニューヨークでしか経験できない礼拝であり、名古屋学院大学の基礎にあるキリスト教とそのルーツであるユダヤ教の世界的な広がりについて理解を深めることができた。



ユダヤ教シナゴーグ
B’nai Jeshurun

2-3 ミュージカルへの引率

ツアー期間の後半に自由行動が 2 日間あり、学生はそれぞれ自由に過ごしたが、希望者の多かったミュージカルについては、2 晩に分けて長瀬氏と私が引率し、全員が何かしら鑑賞した。各自の希望に応じて、ブロードウェイ・ミュージカル（「ライオンキング」、「オペラ座の怪人」、「シカゴ」、「マンマ・ミーア」）

とオフ・ブロードウェイ（「ブルーマン」、「ストンプ」、「ファルザブルタ」）のチケットを、H.I.S. に依頼するなどしてまとめて購入した。学生からは「素晴らしかった」「圧倒された」という興奮気味の感想が多数聞かれ、ツアー後半の主要イベントになった。

また、自由行動の 2 日間にはその他に、長瀬氏がブルックリン地区へ、宮坂がアメリカ自然史博物館へ引率するなどした。

2-4 懇親会と夜景クルーズ

ニューヨーク観光をした 3 月 9 日の晩、日本食レストラン「さんちゃん」にて懇親会を行い、その後そのまま地下鉄でマンハッタン島の南端に向かい、埠頭からフェリーに乗ってスタテン島まで往復し、夜景を楽しんだ。この頃になると、研修の達成感もあり、また互いにかなり打ち解けており、大いに盛り上がった。

懇親会

フェリーからマンハッタンの夜景を臨む

３．帰国後 ―報告書の制作、報告会の準備―

報告書については、編集委員会をつくり学生主体で制作することも検討したが、諸事情を鑑みて今回は宮坂が行うこととした。学生には、企業研修とテーマという 2 種類の原稿の執筆に携わってもらった。テーマ原稿については、学生が各自、ニューヨーク（とワシントン D.C.）について関心のあるテーマをツアー前の事前準備会で決め、それに従ってテーマ別のグループをつくり、下調べと簡単な現地調査を経て、原稿を執筆した。

第一稿の締め切りを 4 月初旬としたが、原稿の集まりは芳しくなく、一部の原稿は何度も催促する必要があった。締め切り前に原稿執筆について相談の機会も設定したが、ほとんど利用されなかった。提出された原稿にはワードの機能を用いてコメントを記入して返却し、修正した原稿を再び提出させた。ほとんどの原稿は 3 回ないし 4 回、このやりとりを経て完成させた。第一稿から完成度の高い原稿がいくつかあった一方で、提出が遅くかつ完成度の低い原稿もいくつかあり、当初の予定では 5 月中旬に仕上げる予定であったが、最終的に原稿が全て揃ったのは 6 月中旬であった。

一部の原稿について作業が大幅に遅延した原因はいくつか考えられる。まず、ほとんどの原稿は複数の学生に共同で執筆してもらったが、そのことが一部で作業負担の偏りや作業の押しつけあいをもたらし、結果として作業が遅れてしまった。次に、技術的な問題として、連絡を状況に応じて CCS で行ったり、E メールで行ったり、さらには LINE で行ったりしたため混乱が生じ、また、ワ

ードの特にコメント機能や変更履歴の機能について習熟度が高くない学生が多かったために余計な作業が生じ、時間がかかってしまった。さらに、私が思いのほかさまざまな作業に手間取り、原稿を学生に返すのが遅れてしまった。これらの点について、詳細は省くが、次回はかなり改善できると考えている。

5 月に入り、報告書の原稿が完成に近づいてきてから、報告会の日程を 6 月 24 日（水）3 限と決め、報告会の準備に取りかかった。報告書の原稿を基にパワーポイントのファイルを作成したため、それほど作業に手間取っていないようだった。報告会の前週にリハーサルを行い本番に備えた。報告会の会場で、来場者に本報告書を配布する予定である。

４．総括

本ツアーは法学部にとって初めての試みであり、多くの作業を手探りで進めなければならなかったが、幸いにも全日程を大きな問題に遭遇することなく終えることができ、帰国間際に、まだ帰りたくない、ぜひまた来たいという声が多数聞かれる、充実したツアーになった。それから 3 ヶ月を経てようやく報告書が完成したわけだが、改めて学生たちの原稿を読むと、彼ら彼女らがこのツアーを通じてかけがえのない学びを得たことが文章の節々から読み取れる。第一稿では舌足らずで素っ気ない感想を書いていた学生のうち何人かは、推敲を重ねるなかで、研修を通じて学んだことをより深く理解し、自らの次なるステップへの道筋を見つけた。他にもたとえば、アメリカからみた日本のあり方に関心をもち、他者のまなざしを内化しつつ、日本に生きることの意味を改めて問うている学生も何人かいる。このような大きな学びの場に立ち会うことができたことをうれしく思う。

このような充実したツアーを遂行することができたのは、ひとえにたくさんの方々の支えや応援があってのことです。研修先の企業の方々は、本来の業務でご多忙のなか、5 日間ものあいだ学生を指導してくださりました。学生の研修態度、基礎的な業務能力、言語能力、服装や身だしなみなどについて、厳しいお言葉を頂戴した一方、態度に関してお褒めの言葉をいただくなど、至らない私どもや学生たちを温かく見守ってくださりました。

また、本ツアーの全般的なコーディネートをしてくださったウエスト・ウイング・アジアの富松氏は、文字通り身を粉にして駆けまわってくださりました。氏の人脈の広さと熱意により、多くの興味深い業務を行う企業へ学生を派遣することができました。

さらに、日本とニューヨークの H.I.S.の方々がツアーの諸手続き、観光、ビジネス交流会など、実務面で支えてくださったおかげで、恙なくツアーを遂行することができました。学生たちの指導もしてくださりながら、ツアーの実務もこなしてくださりました。

最後に、名古屋学院大学の関係者の方々は、法学部の活動のために多額の予算と学生への補助をくださりました。また、法学部長の遠藤先生、国際センター委員の中村先生、ご好意で手伝ってくださった萩野先生をはじめ法学部の諸先生方、そして長瀬氏をはじめ国際センターにも大変お世話になりました。

皆様のお力添えに深謝いたします。ありがとうございました。

2014 年度法学部ニューヨーク・スタディツアー報告書

編集・発行　名古屋学院大学 法学部／国際センター
456-8612 愛知県名古屋市熱田区熱田西町 1-25
Tel 052-678-4093（代表）／ Fax 052-682-6824
発行　2015 年 6 月

Culture & Human Resources
NAGOYA GAKUIN UNIVERSITY